THE JOURNAL OF

JAPANESE HISTORY OF PHARMACY

藥史學雜誌

Vol. 1, No. 1

1966

一目 次一

発 刊 之 辞		朝	比	奈	泰	彦1
薬史学雑誌に寄せる		村	山		義	温1
山科撨作先生を想う			井	干	代	田2
	(原	報)				
紫草の文献学的研究		王	浦		\equiv	郎3
わが国医薬分業の失敗理由			水	藤	太	郎11
	(綜	説)				
わが国における自然科学教育の芽生え						
一近代薬学発祥時期の背景―・		吉	井	千	代	田14
	(史					
下 総 薬 園 考		Ξ	堀		三	郎20
リュードルフ・レーマン小伝		······木	村	雄	74	郎22
	(随					
八十歳をこえて(遺稿)		И	科		推	作26
	(学					
日本薬学大会•薬史学部会講演集(昭和	和30~40年))		• • • • •		28
会 則				• • • • •		33
あしがき						32

THE JAPANESE SOCIETY OF HISTORY OF PHARMACY

薬 史 学 誌 J. His. Pharm.

日本薬史学会

新しい調剤・製剤学の集大成!

薬 剤 学 理論 応用

京都薬科大学教授 内藤俊一 著 B5判 定価 3.800円

本書は調剤学はもちろん,最近クローズアップされてきた,医薬品の安定性予測に関する理論,化学工学的な基礎,生物薬剤学(吸収・排泄・代謝),製剤技術など多方面にわたり3,400余の文献を掲げて,新しい薬剤学の理論と応用面を,初学者にもきわめてわかりやすく系統的に解説したわが国唯一の書.医薬品製剤製造上のキー・ポイントと,できた製剤の正しい評価方法を理解しやすく詳説した.学生はもとより研究室・現場・病院薬局などの技術者・薬剤師の必携書として自信をもっておすすめする.

- ☆調剤学編は調剤指針を基本にして従来の薬剤学をまとめた.
- ☆製剤学編は本書の中核をなすとともに性格・特徴を最も強くあらわしている。すなわち複雑な医薬品の経時変化を熱力学,熱化学を用いて予測する手段,ひいては医薬品の安定化への応用,医薬品の吸収・排泄速度の求め方,それより正しい薬用量の定め方などについて450余頁にわたり,100余の図表を随所に挿入して,詳細・明快に解説した。

主要目次……化学工学的基礎事項 医薬品の安定性および安定化 医薬品の吸収・分布・排泄(生物薬剤学) 製剤技術 製剤処方

☆医薬品および製剤中の医薬品の定性・定量編では、将来の発展が期待され、また必要とされる製剤中の 医薬品定性・定量法を確立するための足場として、関連文献の分類を行なって記述した。

私は本書を推薦します

三樂病院藥局長 不破龍登代

薬剤学に関する専門書はその部分部分につき著されたものはあるが、本書のように薬剤学全体を把握し一括した、いうなればこれが薬剤学であると明確に表徴しうる成書は今までになかった。これが嚆矢といえよう。著者は序に数年の時日を費やし、薬剤学の解説、系統化を企図したといわれているが、その内容を一見しただけで、まさにその通りと烙印が押せる。よくB5判735Pにわたる大書をものにされたものと敬服せざるを得ない。……さればこれこそ小生が従来念願していた待望の書といえる。薬剤学講義用教科書としてまた開局業者、製剤研究者の参考書として必携の書として余りある書と確信する。

大改定版 厚生省薬務局推薦 [好評発売中/]

第七日本薬局方第二部解説書

日本公定書協会編集

A 5 判 定価 3,000円

本書の特色

薬局方第二部は昭和41年4月1日,厚生省告示第163号をもって全面的に改定,多数の品目が入れかわり(新収載品目373品目),各条内容も全面的検討が加えられ大改定された.本書の特色は薬局方原案担当者が,詳細かつ正確

な〔注〕および〔解説〕を執筆したことにあり、したがってその〔解説〕は単なる説明にとどまらず、 実験上の注意、実験データ等を多数記載している。新第二部には、製剤、生薬、製剤原料が主として収 載されたが、これら各条の医薬品についても懇切な解説がなされている。名実ともに「正確かつ権威あ る」解説書として、広く薬学、医学、関係者の必携書として自信をもってお奨めする。

東京都文京区本郷三丁目27-14 振替東京82694番·電話(814)5561



廣川 書店

発りの辞

朝 比 奈 泰 彥*

従来わが国の薬学史は、医学史の一部として取扱われたために、薬学自身の発達に重要な史実を軽視したり、見逃したりした場合が少くなかったと信ずる。今後は本会々員諸君の努力で、これら材料の発見と適正な評価を掲載し、本誌を薬史学の一権威に推進されんことを期待してやまない。

薬史学雑誌に寄せる

村 山 義 温**

中国の昔の本のなかに「古きを温ねて新しきを知る」という諺がある。 史学は昔のことを 調ら べ現代に及び、それを将来の見通しにするのが役目であると思う。 われわれの 薬史学も 史学の範囲内である以上、過去の事績の詮索ばかりでは役目がすまされない。

今やわが薬学は有機化学を基礎として、それに植物学を配して進んで来た過去から、今は物理 化学的なものを多分に加味しなければならない状勢となり、謂わば曲り角に来たとか壁にぶつかったとかいう時期である。ところで「ろ山に入ったものがろ山が判らない」という喩のように、薬学当事者よりも傍から見ている者の方が判るように、薬学として脇役の立場にある薬史学者の方が反って薬学の将来の見通しということに役に立つかも知れない。その意味で薬史学の発展は重要であり、従って此際薬史学雑誌を発刊することは意義ある企てである。切にその発展を祈る。

^{*} 東大名誉教授 • 日本薬史学会会長, **東京薬科大学名誉学長

山科撨作先生を想う

吉 井 千 代 田

本会の生みの親であり、育ての親でもあった山科撨作先生は、昨年 (40年10月21日) 82才で亡くなられ、その後、幹事会、あるいは集談会、史跡めぐり等が開かれても、ふたたびその温容に接することができなくなった。

この事は、われわれ幹事たちが、会の仕事を進めていく上にも、何かよりどころを失ったような気持がしてならないばかりでなく、それから1年余りたった今日でも、先生に対する哀悼、追慕の念は絶えることがない。

ひとり本会のことばかりでなく、学界、業界の長老として、各種の催し、会合等の企画あるいは運営の相談にあずかるほか、それらを実施するための費用の調達等に関しても、自ら東奔西走する労をいとわず、自他ともに許す世話人として、常に推進的な活動を示されたこともよく知られていた。

「三共」に在ること50余年,この間明治,大正,昭和の三代にわたる体験を背景として,わが国の製薬工業発達の跡を語り,また「三共茶ばなし」等の著書をのこし,わが製薬業界の側面史をえがくことに健筆をふるわれたことは,薬史学に関心を抱くわれわれにとっては,かけがえのない貴重な存在であった。

まず薬学を勉強しようとする者は、生薬学のごとき天然物たると、化学合成品たるとを問わず、およそ薬物に関する過去の業績、薬学教育あるいは、製薬業の今日にいたるまでに移り変ってきた姿を知らなければならないと

して、卒先して薬学の史的研究を促すために、本会創設の要を強く提唱されたのであった。 その結果生まれたのが、ほかならぬ日本薬史 学会であったが、一方、自ら薬科大学で、初 めて薬学を学ほうとする、自分の孫のように 若い学生たちに対しても、薬学史あるいは薬 学教育、製薬の発達史について講義をされた のである。

「製薬工業発達史」の仕事に関して、おそらくだれよりも先生の晩年に接することの多かった私は、"薬学振興の一環として、薬学に関する史実を究めるために見聞をひろめて、うずもれている関係史料を掘り起し、収集したものを整理し、それにもとづいて史的考察を加えた研究成果を発表することの重要性を認めなければならない。薬史学会の仕事は、決して好事家による回顧的な趣味道楽を満足させているものではなく、一般の歴史と同じく、「温故知新」のほかに、今日のよってきたる因縁をたずね、将来の発展に役立てようとするものにほかならない"ということを、くり返し語り合ったことも忘れられない。

機関誌発行という宿題に対して、ようやく答を出すことができた今日、これも先生の生前からの鞭韃によるものと 有難く思うとともに、その創刊号に、はからずもこのような追憶文を 載せなければならなくなったことを、ほんとに残念に想う.

ここに幹事会を代表して, つつしんでご冥 福を祈りたい.

紫草の文献学的研究

三 浦 三 郎

Saburo M_{IURA}: Studies on the z_{ICAO} in the Philology (Research Laboratortes, Yamanouchi & Co. Ltd.*)

In this paper, the author intends to comtemplate the character of the japanese botany through the botanical classification of the contents of chinese and japanese botanies about z_{ICAO}.

中葯志¹⁾ の記載における中国の紫草の 対応 植物の種属は下記の如くである.

- i) 新疆紫草 Macrotomia euchroma (Royle) Pauls (Lithospermum euchroma Royle)
- ii) 軟紫草 Lithcspermum officinale L. var. erythrorhizon MAXIM. (L. erythrorhizon S. et Z.)
- iii) 滇紫草 Onosma Paniculatum Bur. et Fr.
- iV) 内蒙古所産的紫草 Arnebia guttata RGE.

しかるに、わが国に自生する紫草はムラ サキ *Lithospermum erythrohizon* S. et Z.

1種類知られているに過ぎない.

これら紫草に関する過去の文献記述を採集し、その記載内容を分類整理することによって、中国および日本本草の性格について帰納的に論考せんとするのが本報の目的である.

1) 紫草の異物同名と同物異名;中国本

- * Azusawa, Itabasi-Ku, Tokyo.
- 1) 中葯志 I 中国医学科学研究所等編(1961)
- 2) 三浦:採集と飼育 25 7 (1963)
- 3) 田中長嶺: "產業曼筆—江戸紫"筆稿本(18 92)安井広氏蔵
- 4) 知里真志保: "分類アイヌ語辞典" I 植物 篇 (1953)
- 5) 李勣・蘇敬:新修本草 巻6 草部中品 (岡西為人:重修新修本草(1964)を引く)
- 6) 梯南洋:重修本草綱目啓蒙 巻7 (1844)

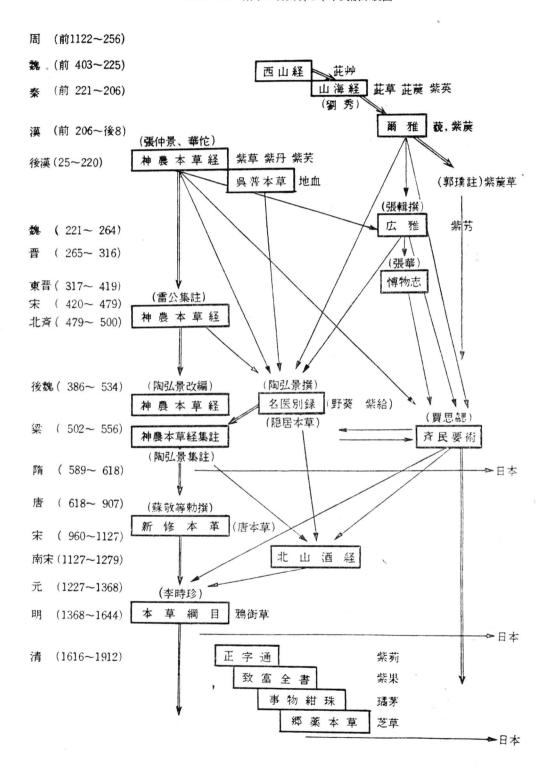
草に見られる 紫草の 異物同名 と 同物異名 は Table 1²⁰ に示される. 一方, わが国本草に おける 紫草の 異物同名と 同物異名 は Table 2²⁰ に見られる如く, 中国本草の名称を悉く 転載している. 本草書以外にムラサキの別称は, 下総の 方言ノベニ³⁰ と アイヌ の 薬草名 Pewre-Kina⁴⁰ が知られる程度である.

文字成立の原則からすれば、紫は茈を用いて染める色調の名である。従って紫染めに供用し得る植物全でが、紫草の総称得ても差支えない。紫草に多く見られる異物同名と同物異名は、呼称成立の過程から考察すれば、蓋然性認められることである。一方、"経史証類本草"において、紫菱は紫芙に作られ、この紫菱も紫芙もともに紫漠の誤記と推定されている。わが国本草おいて、これら誤称と思われるものも加えて、中国本草の異名全てを転載している事実は、わが国本草学者の先進文化を無批判に受け入れている自主性のない性格の一端を示すものである。

また、わが国最初の植物名彙である"本草和名"巻8において、"新修本草"5 巻20に蘇敬が**有名無用の植物**の一つとして分類する**紫給**を、"兼名苑"の引用名として掲載してある事実も見逃すことは出来ない。

- 2) 形態学的記載について:
- i) 新修本草⁵⁾: 苗似蘭香 茎赤節青 二 月有花 紫白色 秋実白
- ii) 重修本草綱目啓蒙⁶⁾: 長じて 苗の高さ 二尺ばかり. 葉は細長にして 旱蓮草 (タカサ

Talbe 1. 紫草の物異名と本草文献系統図



文献名	卷	年 代					4	3									稍					和名
常陸風土記	行方郡	(713) 和銅 6		紫肿																		
東大寺正會院 文 書	巻42 豊後国正 税 • 帳	(736)		紫艸																		
万 集 葉	巻1, 3, 4, 7, 11, 12, 14, 16	(759)	紫草																			紫 武良前 牟良佐伎
本 草 和 名 深江輔仁撰	巻8 草 中	(918) 延喜 18	紫草		紫丹	紫芙	(1) 藐	野葵		茈 ⁽²⁾ 漠	紫 ⁽³ 蘪											元良佐 妓
源 順 撰 传名類抄	卷14 染色具	(931) (937)	紫草																			無良散岐
和 爾 雅 貝原好古編	巻7 草 木	(1694) 元禄 7	紫草		紫丹	紫芙	(4) 藐			茈萸												ムラサキ
和漢三才図絵 寺島良安編	巻92 山草類上	(1713) 天徳 3	紫草		紫丹	紫芙				茈萸		地血	鴉街草									無良佐木
成形 図説 自占春輯	巻33 薬 草 部 第4山草類	(1831) 天保 2	紫草	为	秀 ⁽⁵⁾	紫 ⁽⁶⁾ 芙	(4) 藐	野迷葵	紫光給			地 ⁽⁷⁾ 血	鴉 ⁽⁸⁾ 衛 草	茈 ⁽⁹⁾ 草	紫 ⁽⁹⁾ 英	紫 ⁽⁶⁾ 戻	紫 ⁽⁶⁾ 艿	紫 ⁽¹⁰⁾ 果	瑞 ⁽¹²⁾	紫 ⁽¹³⁾ 药	芝 ⁽¹⁴⁾ 草	牟良佐伎
重修本草綱目 啓蒙 梯南洋撰	巻7 山 草	(1844) 弘化 1	紫草															紫 ⁽¹⁾ 果		紫 ⁽¹³⁾ 药		

Table 2. 本邦の古文献に現われたいる紫草の同物異名

- 文献中の傍註 (1) 出蘇敬註 (2) 出兼名苑
- (4) 請爾雅
- (9) 山海経

※ 本草和名引兼名苑

ブロウ)葉の形の如く互生す. 夏日枝梢葉ご とに白花を開く、五出形梅花に似て、 大さ三 分許, 内に蘂なし、外に蕚あり、 亦互生にし て細長し. 花謝して実を結ぶ. 蕚ごとに一二 実, 形円尖にして紅藍花実に似て小し. 熟し て白色或は淡褐色を帯びて光あり.

成形図説7: 花に粉紅 (ウスアカ) と黄なるものあり、霜後は枯萎む、其初生へ の歳は一根直下をなし. 一茎二三枝を生じ, 年久しきは根数軍を分ち、数茎叢たてり、苗 の高さ尺許, 茎円く葉は差互にして, 胡麻の 茎立にひとしく、茎ともに渋毛あり、花は下 より次第に開上る. 漸く茎嶺梢に至る故,終

- 7) 曾槃,白尾図,曾占春:成形図説 巻33 葉 草部 第4山草類 静嘉堂 文庫 稿本(1804)
- 8) 白井光太郎校;頭註国訳本草綱目 第4冊 (1930) 春陽堂
- 9) 牧野富太郎;牧野日本植物図鑑(1940)北隆
- 10) 熊代·西山;後魏·賈思勰撰"斉民要術"巻5 (1958) 東大出版部
- 11) "常陸風土記" 行方郡当麻郷(和銅5?)日 本古典文学大系(1957)岩波

夏に花絶ず. 巓梢の花開比,下花は既子を結 ぶ、子を結も花開次のごとし、 秋に至りて熟 畢ぬ. 形円尖て移子(ひえ)に似たり.

以上、本草書における形態学的記述を考察 するに、新修本草に記述する紫草は Macrotomia あるいは Onosma の種類に属し、重 修本草綱目啓蒙は邦産種 Lihosprmum の形 態について記述していることは明かである が、島津農書の成形図説に記載する 牟良佐伎 の対応植物を詳かにすることは 困難である.

中国歴代本草に掲載する紫草の本草図につ いては、牧野富太郎博士は国訳本草綱目8)と 日本植物図鑑9 において、植物名実図者の本 草図はわが国のムラサキとその品種を異にす るものとその見解を述べている.

- 3) 生態学的記述;
- i) 斉民要術¹⁰⁾; 種紫草 宜黄白軟良地 青沙地亦善 開荒黍穄下 大佳
- ii) 常陸風土記¹¹⁾; 野之土斯 然生紫艸 薬用植物の自生環境や生産的自然要因を明 かにすべき 生態学的記載は、本草書において

			Table	3 古	文	献	に	基く
出典		生 産 地	省	名	盛京	山東	山西	陝 四 西 川
文 献	名	年 代	修者	県 名	遼東名	青曹州州	平潞泺陽安州	西同盛安州都
名 医 別 録	3巻	梁 502	陶弘景					
集注神農本草経	7巻	梁 502	"					di di
博 物 誌		平	張 華		C			
大清一統志	500巻	清 乾隆25	勅 撰		C	0	00	00
"	90巻	明 天順 5	"		С			0 0
畿 輔 通 志	46巻	清 康熙 2	干成竜修	郭 棻 纂	C			
"	300巻	〃 光緒 2	李鴻章修	黄 彭 年 纂	C			
盛京通志	76巻	〃 乾隆 1	王新命等修	張九徵等纂	0			
江 南 通 誌	76巻	〃 乾隆 1	王新命等纂	張九徵等纂				
"	200巻	〃 乾隆 1	尹継善等修	黄之雋等纂				
安 徽 通 志	260巻	〃 光道10	陶澍等修	李振庸等纂				
重修安徽通志	350巻	〃 光緒 4	呉抻修等修	何紹基等纂				
山 西 通 誌	30巻	明 万暦					0	
山東通誌	37巻	清 雍正 7	岳 濬 修	杜 詔 纂		0		
陝 西 通 誌	35巻	明 万曆39	汪 道 享 修	周宇馮従吾纂				0
<i>!!!</i>	100巻	清 雍正13	劉於義等修	沈青崖纂				0
勅修浙江通誌	280巻	〃 乾隆 1	李衛稽曽筠等修	伝王露等纂				
江 西 道 誌	54巻	〃 康熙22	干成竜等修	杜果等纂				
湖 北 通 誌	172巻	民国 10	楊承禧等修)
湖南通誌	288巻	清 光緒11	李瀚章等修	曽国荃等纂				
四川通誌	204巻	〃 嘉慶21	常 明 等 修	楊芳粲等纂				0
福 建 通 誌	64巻	〃 康熙23	金 鋐 修	鄭門極等纂				
重纂福建通誌	27巻	〃 光道29	孫爾準等修	陳寿祺等纂				
広 東 通 誌	70巻	明 嘉靖39	黄 佐 撰					10-14-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00
貴 州 通 誌	46巻	清 乾隆 6	郭 爾 等 修	靖道謨等纂				
江 西 通 誌	180巻	〃 光緒 6	劉坤一等修	趙之謙等纂				
		Macrotom	nia euchroma RO	YLE				
中 葯 志	I	L. erythr	orhizon S. et Z.		0	0	0	
		Onosma p	aniculata BUR, e	t FIL.				

4	_		E	0	の	Ä	长	Ī	草	4	主	Ĩ.	奎	_ :	分	7	布	1	表												
可有		1	湖北		ì	朝有	之通	工			浙江		1	貴州	Ž	工 写					福建					広東	広	新	雲	河	3
有易	鄖陽	襄陽	安陸	宜昌	長沙	沅州	安慶	碭山	東山	衢州	処州	台州	貴州	黎平	吉安	贛州	建寧	延平	福寧	福州	興化	泉州	漳州	永春	汀州	広州	西	疆	南	北	袭
	×							0																							
0		0							0																						
									`							0															
					0										0																
							0																								
							0																								
							0																								
										0	0	0			0																
	0	0	0	0																											
					0	0																									
																					0	0	0								
																	0	0	0						0						
													0	0												0					
															0																
			1																				ı						0		
))													0	0	(

小野玄妙編"古文献に基く支那物産分布資料"(東方文化研究所)を基にして調査総括す

見出すことに出来ない. 斉民要術は東アジア 型耕農法と型耕文化を体系化した最古の農書 であり、以後の農書の原典である.

わが国の風土記は世界最初の経済地誌と目 される文献であり、両者の記載は紫草の生態 学的記述であるとともに、両文献の性格を端 的に示している。

4) 紫草の生産地と自生分布;中国歴代の通志を基する紫草の生産地は Table 3¹²⁾ に表示され、またわが国古文献にみられる紫草の関係地は Table 4に表示される。わが国古文献の記載内容を価値判断する資料として、現在知られているムラサキ自生分図¹³⁾を Fig.

130° 140° . 144° . 142° 144° . 142° 144° . 1

Fig.1 むらさきの分布

1 に掲げてみる.

- 12) 小野玄妙編; "古文献に基く支那物産分布資料" (1940) 東大・東方文化研究所
- 13) 奥山春季;"原色日本野外植物図譜" I (1954) から転載
- 14) 韓非子;外儲説左上〔伝〕五 伝説之以無衣 宏
- 15) 兼原明衛;"新猿楽記"(弘安9)(1282)
- 16) 中村省三;"南部むらさきの由来"盛岡紫草 園(1918)
- 17) 続東大寺正倉院文書 巻42 豊後国正税帳 (天平8) (736)
- 18) 大蔵永常; "広益国産考巻3" (文政6)(1859)* 本草綱目を引く

中国歴代の各王朝は政治の要諦として,本草書の編纂や通志の作成を試みているも,わが朝の為政者に斯る努力の跡を見出すことは出来ない。また江戸末期の各地に派出されている採薬使たちの報告の如きも,植物分類地理学上,業績として認め難いものである。

5) 経済学的記録;

i) 韓非子¹⁴⁾; 斉恒公好服紫 一国尽服 紫 当是時也 五素不得一紫 恒公患 之

即ち、中国の春秋末期(前685~前643), 紫服が盛行して紫糸が騰貴し、ために国民経済を逼迫した事情を叙述している.

- ii) わが国においては、前記古風土記が生産学的感覚をもって紫草を取扱っている外、室町期において紫草は交易品の本朝物として大陸に輸出されており、¹⁵⁾¹⁶⁾ また江戸期における工芸植物、南部藩の専売品であった紫根の生産事情については、南部むらさきの由来¹⁶⁾に詳しく紹介されている.
- 6) 紫草栽培に関する記載; 中国における紫草の栽培法は、後魏の農書、山東・高陽大守賈思勰の撰す斉民要術¹⁰⁾に詳述され、中国歴代本草に説く紫草栽培法は何れも本書の内容を踏襲するものに過ぎない。本書に記述する栽培紫草は、春に播種してその年の秋に収根すべき品種に属している。

わが国の奈良朝に紫草園経営の 記録がみられ¹⁷⁾,栽培法の実際については,江戸期における三大農学者の一人,大蔵永常の**広益国産考**¹⁸⁾に述べている。しかし,多年性草本である邦産種ムラサギを栽培するに当って,永常の経験は僅か2年で終わっており,しかも記述の中で中国本草に記載する紫草はわが国の紫草とその性を異にするものに非ずやと,疑問をいだいていた。

武蔵野に行われたムラサキ粗放栽培法の概略は産業曼筆一江戸紫³³に紹介されている.

陶弘景は,今出襄陽 多従南陽新野来 彼 人種 即是今染者 薬都不復用*と,集約栽 培の紫草は染色用に,自生の採集品は薬用に

마
文書
214
基
7
200
田
京中
7
布地

Table 4.

殖産略考		啓蒙巻7山草	重修本草綱目	巻92 山草	和漢三才図絵	1 4 页 页 分	十站	巻3	毛 吹 草	2 3 巻 民部	酒 喜 式	万 葉 集	東大寺正倉院 文書 巻 4 2	H E H	14 十 国 路 点		×	
(政 府)		客恶汗奮	H *	E X X	野谷自自幸	(A) (B) (B) (B) (B) (B) (B) (B) (B) (B) (B	II P	日田	拉 一	探灯心十寸洪	超八十二四十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二					腴	<u> </u>	<u> </u>
(1873	(弘化1)	1844	(正徳3)	1713	(元禄4)	1691	(正保2)	1643	(延長5)	(927)	(759)	(736)	(和銅6)	(713)	90		91
		C)					93				海石榴市				性	\times	345
		£										横野				#	葓	
		C)	田	E											道	[1]	囚
		C)	県	-11-) -)	00F	>	u .				Ħ	掘	
		C)							00F	4-11					州	-11	展
										00F	11-11					模	盐	
									×	7100	ווגל					媙	與	海
		C)							700E	اارح	1				蕊	거	油
							-							郡麻	行士	翻	乖	1 TIK
												名点浦		→H	ПК	伊	档	
		С)											-		泵	型	南海道
		С)	*	\times											4	中	漸
		,							-			維 土郡 活馬 嬰				Ä	江	
			-							700F	וו. ב	託馬摩				颤	TILL	無
										1001F						畑	<u> </u>	/41
						9				7000F	_					理	거	-
		兴	掛	兴	压					,,,,,,						∄	福	E
	ъ.	C	_	軽	推									_		-	- TEF	-
		F	典	1.74	,						_					普	紐	浥
		C		田	夾	田	焚	H	葵							ī	经	-
										7,00	1					堋	H	E
										700F				-	-	四	加	山陰道
	5						-			7000	五、大					曹	強	
尾	T.									半府	太女	(把馬野)	以			郊	岬	H
										700E	`	(عره الله)	W 14 10			山	П	進
																五	*	
			_				1			000F	اديم							油
		С))	C))							鄹	字	

供すべきものとしてその 用途を 区別 している. この用途の 区別は 盛京通志¹⁹ にも

根花俱紫以可染 山産粗而色紫入薬 園産 細而色鮮 只可染物

と記され、しかも、この慣行はわが国の江戸 紫にも見られ、栽培の黒紫根は自生の山紫根 よりも染色用に歓迎されていた 20 .

7) その他;邦産種ムラサキ種子の乾燥貯蔵したものは、これを人為的育地の播種床に置床しても直ちに発芽することなく、床中の種子は冬期の寒冷による刺戟によって休眠が打破され、春期の湿潤と温暖によって胚の幼根と幼芽の萠茁を見るに到るが、これら発芽の過程においても外界の刺戟に対して鋭敏であり、乾燥などにより発芽遅延や二休眠の現象に陥り易く、野生植物の特徴を最も強固に保有している。秋播生の強い種子の植物であることが明かにされている²¹⁾.

以上、わが国古文献に現われている紫草の記述を通じて日本本草の性格を論及すれば、紫草文化は最も古くわが国に導入され、ムラサキは利用価値の高い経済植物の一つであるに拘らず、これが利用文化の実際を具体的に伝える記述は極めて僅少である、わが国本草の多くは中国歴代本草の内容を無批判に模倣転載し、これが字義の解釈に終始しているばかりでなく、後世においても典籍の註解や考証に重きをおいている。

すなわち, わが国において本草学が地域社 会の実生活に基盤をもつ, **実用の学**として発 展し得なかった主な理由は、生薬の生産を促がすべき医学が、庶民の診療を担う実用の学として江戸期に独立するに到るまで、宗教社会に隷属して加治祈禱の効験を現わす方術と同居しており、また生薬の生産加工にしても太閤検地に続いた慶安3年(1649年)の裏作禁止令の解除までの封鎖々国経済の封建制度に縛られた農民は、藩幕経済の基礎を支える稲作以外の勝手作物はその栽培を厳禁されており、一方、享保7年(1722年)、和薬改会所の設置によって一部和薬が唐物の代替品として市場疎通が認可されるまで、薬種の殆んどを唐物に依存していたことなどが、日本本草の実用的発展に大きな禍根をなしている。

さらに弥生式稲米農法を踏襲するわが国の 農業に較べ、大陸華北の乾燥地帯に展開した 畑作犁耕農法が、薬用植物の生産技術の発展 に有利であった史的背景も見逃すことは出来 ない

生薬は地理地域における 生産的自然要因によって、その品位や薬能に影響見られる薬物であり、従って生薬を用いて薬治療法を施す中国伝統医学やわが 漢方の医術においては、生薬の来源に帰因する療法上の差異があって然るべきものであるが、紫草に関しては斯る薬方上の相異は認められない。しかし、紫根色素に漬けた灯心を用いて桐油を燃やしその油煤を以って墨合せ²²⁾する中国墨の製法や、菜種油を紫根色素にて着色した寒暖計すなわち、わが国の蚕当計²³⁾の如きは、地域社会の基層文化に密着した民族文化である。

終りに本研究に資料の便宜と助言を賜わりました二松学舎教授橋川時雄先生,宇都宮大学(農)教授態代幸雄先生,また有益な示唆を賜りました東京大学(薬)教授柴田承二先生,東京薬科大学教授藤田路一先生に謝意を表します.

¹⁹⁾ 王新令等修, 張九徵等編;"盛京通志" 遼東 県吉林外記七(乾隆1—1736)

²⁰⁾ 三浦; 生薬学雑誌 17 (1963)

²¹⁾ 三浦;薬学研究 33 (1960)

²²⁾ 宋応星 (明) "天工開物" (崇禎10—1637年) 巻16, 丹青, 墨.

²³⁾ 宗田一;寒暖計の歴史補遺,薬局,5,8,(1954年)

わが国医薬分業の失敗理由

清水藤太郎*

明治維新は諸事近代的に改革されたのであるが、医師は薬を売って収入を得る習慣が長く行なわれ、医師が薬を売る弊害についてだけは全く気がつかなかった。もっとも薬店主と医師となれあいで、人参などの高価薬を売りつけたことなどが、川柳や狂句などに散見するが、これらの弊を根本的に明らかにし、制度によってこれを規正することは全くなかった。

ヨーロッパ諸国においては12世紀頃から専 業の薬局(薬商)が発達したが、医師が薬を 売ると、「自分にない薬は用いない、いらな い薬も売って収入を増す」という重大な弊が あることを知って、ドイツ皇帝フリードリッ ヒ二世 (1194~1250年) (鎌倉時代) が、有名 な「医薬令」を公布し、医師と薬剤師の業務 を分離し, 医師の薬局所有を禁じ, 両者の協 同を禁じ,教育,監視,薬局方,薬価などを 規定した. これが甚だよく実情を通じていた ので、ヨーロッパ各国に行なわれ、ヨーロッ パ人は薬は処方箋によって薬局から買うも の, 医師から買うということは全く 考えられ ないようになった. 即ち医師は己れの収入に 関係がないから、薬は必要な人だけに、必要 な量だけを用い、全く薬の乱用を防いでいる のである.

わが国においても、明治初年から「医薬の分業」を原則として「薬剤師」なる制度を作り、医師の売薬を禁ずのであったが、明治100年の今に至るまで「医薬分業」はほとんど行なわれない。それには次のような理由がある。

1. 江戸時代からの長い長い慣習を破ることは甚だ困難である. 前述の如く民衆は薬は

医師から買うのが原則と考え、薬局で買うのは変則と今でも考えている人が多い. この慣習を破るための薬剤師団の宣伝がほとんど行なわれず、純理論だけをひっさげて議会で争うことだけに専念している.

- 2. 医師に比し薬剤師の数があまりに少なかった. 医師も「医制」(明治7年)により,新規開業には医師試験を受けるのであったが,医師団の運動と当局者の理解により,次のように無試験で免許を与えた.
 - イ. 明治8年, 従来の開業医は無試験
 - ロ. 明治10年,諸官庁,地方の公立病院に 奉職し,医療もしくは教師の職にあった ものは無試験
 - ハ. 明治10年, 陸海軍軍医およびその試補 であったものは 無試験
 - ニ. 明治10年, 文部省の認めた医学校卒業 者は無試験
 - ホ. 明治15年,従来開業者の子弟であって 満25才以上のものは無試験

医学教育も各地に行なわれたので、新制度による医師は急激に増加した.これに反して薬剤師(当時の薬舗主)は必ず試験を要し、しかも処方箋調剤は全く有名無実であったので受験者も少なく、明治9年6月まで試験を経て免状を受けたもの18人、10年6月、薬店数5993、うち免状あるもの22人に過ぎなかった。明治23年「薬律」施行当時、全国医師数3.8万人(内従来開業3万人)に対し、薬剤師は1700人に過ぎない。他は薬種商であった。しかもこの薬種商は、伝統の堂々たる店舗をかまえ、その地における政治的にも経済的にも有力な存在であって、同じクスリヤでありながら、これらの人達は分業運動に参加しな

^{*} 東邦大学

いのみならず, 若い薬剤師の,経済的にも政治的にも,何の力がなく,吹けば飛ぶような人達の運動にはむしろ反感をもつものが多かった.従って分業運動は,その勢力が甚だ微々たるものであった.

3. 政府当局者は薬学の発達を軽視した.

当局者は薬剤師の業権が確立しなければ薬学が発達しない、薬品製造も進歩しないで、国家経済に大なる不利であることを認識しない、歴代医薬の政局に当ったものは、中央も地方もともに医師であって、薬剤師はいずれの官庁においても医師の下につき、医師の利益は尊重されても、これに反する薬剤師の利益は常にほうむられ勝ちであった。医薬に関する制度の会議は医師側が常に絶対多数であって、しかも医師は強固な団結をなして常に当局者を圧するの傾きがあったから、医薬分業論など思いもよらなかった。

4. 薬剤師の分業運動が拙劣であった.

前述の如く業者も少なく, 民衆にも当局者に も理解するものなく, 政治的にも経済的にも 急速強制分業は全く不可能であったにかかわ らず,薬剤師の指導者は,明治23年以来,議 会運動に終始し、その効を急いだのである. 医薬の如き長い 習慣を改革するには、その理 論と実際とをよく研究してこれを 民衆に宣伝 し、多くの理解者を得て初めて政府当局者を 動かし得るもので,一人や二人の議員の賛成 だけでは、運動はむしろ医師の反感を買うに 過ぎない. まず民衆運動が第一で, 議会運動 は必要がない. むしろ有害である. 医薬分業 は民衆が理解して医師から薬をもらわなくな れば、法律は今のままでもよい、 法律改正は 必要がないのである. あたかもアメリカ合衆 国では、法律は分業になっていないが実際に 分業が行なわれている. 合衆国は60年前には わが国と同様, 医師が全面的に薬を売ってい たのであるが、アメリカ薬剤師会が「薬は薬 局に」と早くから民衆宣伝をして実際に分業 が行なわれ、年間8億万枚の処方箋が発行さ れている. わが国の歯科医師会も, 昔は歯が 悪くても普通の内科医に行ったのであるが、明治の終り頃から「歯は歯科医師に」と各地に講演会を開いて宣伝し、今は歯がわるくて内科医に行ったら非常識と笑われるに至った。かくして歯科医師は医師会と議会などで争うことがなく、約20年にして「歯は歯科医師」を全面的に獲得したのである。

これに反しわが薬剤師会は、明治24年以来 議会運動に猪突して 医師会 と 争い、中には 「医師殺人論」などをかかげて 攻撃のみを事 とし、医薬兼業が経済的に不利益なことを認 識させるに努力しなかった. しかもこの過激 運動を不可とし、まず民衆運動をなすべきこ とを論ずる薬剤師もあったのであるが、「急 進派 | の当事者は、「漸進派」の論者を「医師 に薬を売り、医師の鼻いきのみを気にする商 人根性 | とののしり、それが日本薬剤師の大 多数の賛同を得て分業資金を集めて議会運動 に猪進したので、薬剤師会は二派に 分かれて 長年にわたり相争ったのであるから、分業運 動が成功しなかったのも当然である. 当時の いわゆる「急進派」の人人の所論はさきの明治 薬学校長恩田重信氏著「医薬分業戦」(大正6 年)にある次の論説にも見ることができる.

「医薬分業はどうしたら実現するか.

我々は直ちに対議会戦を主張する.

所謂軟派は金もうけ主義にかられている.

医薬分業は、どうしたら早速に実行することができるか? この問題はいわゆる「分業実行方法論」で、薬剤師仲間にも硬軟二派がある. 我々はいわゆる「急進派」で、一方には帝国議会に向って迫り、一方には与論を喚起してもって気運を成熟せしめようと言うのである. 今期議会に肉迫したのも、この「分業戦」を印刷して配布するのも、皆この分業実行手段である.

しかるに薬剤師のある一派は、いわゆる 「軟論」を主張している. その説を摘んで言 えばかようである. 曰く

今の薬剤師は学問も低い, 又人格も低い,世

間の人から見ると、医師の方が 遙かに品位が 高く見え、薬剤師に調合してもらうよりも、 医師の薬室から薬をもらった方が、 信用が多 いように思うていられる. 畢竟するに薬剤師 は第三者から認められていない. これが唯一 の「分業難」たる所以であるから、 分業を実 現せしめるには, まず蕊剤師の学問を高くし, 同時に指定薬品制度や売薬法の 改正などを行 なって、まず薬剤師の実権と実力とを 増進す る様に取はからって行かねばならぬ. しかる ときは薬剤師の方から分業して呉れと 言われ なくとも、 第三者から泊まられて分業が自然 に成立する. かくすれば社会制度の激烈なる 変化をも見ず、円満にこの問題が解決される のである. 対議会策の如きは、徒らに医師の 反感を高め、 第三者から嫌悪せられるに過ぎ ず, 害あって一利だもない, 云々.

こういう風な所論が即ち軟論である.この 論は我々にはまたこれを一つに恐医病論と呼んでいる.医師に関係を持っているか,また は医師に薬を直接に売りこんでいて,医師に にらまれては翌日から得意を失なうというこ とをおそれるような人人の所説である.しか らざれば分業運動などに加担して 暇を つぶ し、金を棄てるののは愚の 骨頂であると悟っ たように納っている 横着者の 言い 草に 過ぎ ぬ.薬学博士池口慶三君,大阪薬業新聞主筆 小林亀松君,三共製薬株式会社工場長湯浅武 孫君などは、察するところこの軟論の主論者 らしい.博士池口君は、過般「薬業の友」記 者に「いやしくも真面目に分業問題を解決せんと欲せば、予が常に唱道するが如く、薬剤師はすべからくその天職をつくし、実力を養ない、社会上の信用および地位を高むるとともに、一旦事を挙ぐるに当っては、いわゆる挙国一致の態度に出でざるべからず」と語られた。これを以て同君が、分業実行法に対する意見の軟派 たることが 明瞭 している.

所が、薬学博士丹羽藤吉郎先生もまた「薬 業の友」記者に話された事がある.

実力養成説について、薬学博士丹羽藤吉郎君(前略)とにかく私は大にしては国民衛生のために、小にしては薬剤師のために、1日も早く分業を実行せねばならぬ。それには与論を代表する議会の賛成を得る外は無いと信じている。

或は薬剤師の実力を養い, 地位を高め, 而して後分業運動をしようとかいう説(池口博士等の軟派説)もあるが, それはできない相談だろうと思う. 薬剤師全体が金をもうけて実力が充ち, 地位が向上するというようなことは百年待ってもあるまい(後略).」

かくの如く両派がしのぎを削って相争ったが、多くの場合「急進派」が大多数の賛同を得て、しばしば議会に分業案を提出して争ったのである。終戦後、形式的には医薬分業となったが、これを実際化すには、薬剤師は民衆宣伝を気長く実行しなければならない。議会運動はむしろ有害で必要がないことがわかるであろう。

わが国における自然科学教育の芽生え

一 近代薬学発祥時期の背景 一

吉 井 千 代 田*

科学技術といっても、その範囲は広域にわ たっているが、それが直接われわれの 日常生 活につながりが深いばかりでなく、国家経済 力にも密接な関連があるので、 依然その振興 はつよく叫ばれている. 自然科学関係の話題 が世間一般の注目をひき, たとえば, 国際的 な学会が開催されるたびごとに、 ジャーナリ ズムもまた好んで取材に力を入れるようにな った. 当然,多くの関係学会の機関誌刊行を はじめ,一般向の綜合雑誌,新聞等も科学記事 欄を設け、 あるいは解説書も続々と発行され ているが、科学の振興が、単なるスローガンや 予算増額などで簡単にできるものではないこ とは、他の部門における場合と同様で、まずそ の気になって 実践するということが、如何に 重要であるかは、歴史的に見るとよくわかる.

歴史は変転するとともに、過去より未来へわたって連綿としてつづくものであるから、その沿革を一時期を画して論ずることは難かしいが、戦争という異常な出来事の前後を通じて、比較対照的に批判することはできる。戦争が及ぼした影響によって産業界が如何に変遷して行ったか、それと併行して、自然科学界の進歩の過程を展望することもできる。

また科学技術の発達をはかるために、創造的、意欲的な頭脳をもった研究者を育成することが、教育の目的であるとすれば、科学教育にたずさわる者もまた、その点を自覚しなければならない。たとえば、われわれは19世紀の後半以降、ドイツの化学、特に工業化学の研究が世界でも抜群であったことを認めている。しかし、よく言われているように、こ

の事は決してドイツの国民性に由来するものでもなく、また偶然そうなったものでもなく、全くドイツにおける徹底した科学教育に負うものであることを教えられる.

明治維新後は、鎖国から開国へと急進的に移り変り、明治政府は学制を公布して教育の 普及をはかるとともに、多くの外人教師たち を招いて、学術の発達、人材養成をはかった。 また、盛んに留学生を海外に送って、欧米の 文化を吸収するための実力を培うことに努め たが、自然科学教育、研究は、明治時代を通 じて官立大学、各種試験所を中心として行な われる程度にとどまり、ひろく民間にまで徹 底するにはいたらなかった。

明治初年において、海外留学生を派遣した 先は、米、英、独、仏の諸国のほか、ロシア、 清国などであったが、これは外人教師に代って教育の任に当ることのできる日本人教師を 養成する必要があって始められたものであり、主として文部省からの官費による者が多 かった。

ここで、さらに先進国として、多くを学ん だ西欧諸国における科学教育のうち、特に化 学に関する例を見てみよう.

フランスは、自然科学部門において、幾多の独創的な業績と、傑出した学者を出しているが、近代科学の発祥地といえば、それはラボアジェやゲイ・リュサックを生んだフランスではなかったか。ドイツの化学は19世紀までは、フランスのそれに比べて、むしろ後進的であった。しかもドイツが最も進歩的であったといえることは、大学に化学実験室を備え、進歩的な学生に対して化学実験の機会を

^{**} 日本薬史学会

与えようとした点であって、世界でも先鞭を つけたからであった。

これはドイツ化学の先駆者で、有機化学の 開拓者であり、かつ農芸化学の始祖でもあり、 また、かの有名な尿素の合成に成功した ウェ ーラーの研究を助けたリービッヒの功績でも あった. 19世紀初期における大学の化学教育 は、主として講義によるものであって、今日 では原則ともいうべき実験をやるということ は極めて稀であった 特に化学分析あるいは 何か研究でもやろうと思う学生は、 特に許し を得て教授個人の実験室を 利用させてもらう よりほかなかったというから、青年時代のリ ービッヒが, はるばるパリに出かけて, ゲイ ・リュサックの許に行ったことも, うなずか れよう. その結果, リービッヒはドイツに帰 国してからギーセン大学の 化学教授に任ぜら れると, 政府を説いて, まず化学実験室を造 らせた. これは実に今から 138 年前の事であ った。

彼の実験室には欧州各国から、 教えを請う ために研究生たちが集まってきたが、 ドイツ の化学研究が名実共に急速に進歩したのも故 なしとしない. またベンゾール核の構造研究 で不朽の名をのこしているケクレは、はじめ は、同じギーセン大学で建築学を専攻してい たが、リービッヒの感化を受けて化学の研究 に転向することになり、 ケクレの門下からバ イヤーが出て、インデゴに始まる染料工業発 達の基礎を造り、次いでインデゴの化学構造 を確証したエミル・フィッシャーはバイヤー の門弟であったことを想うと, これらの代表 者たちのつながる系譜をながめて、 そこに人 と人とのつながりのほか、 それぞれの個性と か天分とか、 意志とか意欲とかいらものが、 運命的なものを画いて行ったことを 想らべき である.

また、わが国の化学者、特にわが薬学界の 偉大な先輩たとえば長井長義らも、このドイ ツの化学教育を範にとってきたが、ドイツの 化学工業の発達には一貫した精神が流れ、そ れが脈々として 伝統的に承け継がれ、今日に つづいていることを如実に 示しているのであ る.

明治初年における自然科学関係の 各部門の 出身者の中には、明治時代のわが国科学界の 指導的立場に立って活躍した人材が多かった が、科学教育の指導に当った多くの外人教授 の功績が大きかったことも 忘れることはでき ない・

わが国で一般的に自然科学研究が 行なわれ るようになったのは明治維新以降のことであ ったが、すでに徳川時代においても蘭学者が オランダ語を通じて医学, 天文, 暦学, 造兵, 火薬等の研究と業績を移植している. 徳川時 代と明治維新後とでは, 政治的, 社会的条件 にも大きな相違はあった.しかし、いずれに せよ, 蘭学者の研究が, 明治時代の科学界が 急速に推進されたことに 先駆的な役割を果た し、その後の発展に寄与したことは否定でき ない. 蘭学の研究は徳川吉宗という 意欲的に すぐれた政治家の下に盛んになったもので, その当時の幕府の財政は極度につまり、封建 制度下に在って窮乏を告げる 農村の姿に心を 傷め、 暦の改正の必要に迫られたことによっ て、 蘭学に関心をもつように なったものだと いわれている.

かくして和蘭通詞の力を得て,青木昆陽, 前野良沢,杉田玄白らの逸材が血のにじむよ うな精魂を傾けた結果,蘭学研究は普及され て行った。まず主として医学の研究から入 り、薬学も研究上の必要から、動物学、植物 学、鉱物学など博物学的研究へと進んで行っ たが多くは好奇的の興味本位の態度によって 新知識を吸収するにとどまり、自ら精密な観 察や実験にもとづいて、体系的に研究を進め て、基礎的な理論まで会得しようとする者は 少なかった。

自然科学に関する知識や技術については、 前述のようにわが国特有の物産学、博物学あ るいは、兵器、工芸などに必要な技術として 積み重ねられてきたが、歴史的に考えると、 やはり蘭学が入り、さらにひろく洋学といわれる西洋文化の伝来、導入、移入(これらの言葉には、積極的と消極的の意義の差がある)によって少数の外人あるいは書物、それらの飜訳によって伝えられ、習得されたものであって、やはり教育という体系的な形で、教えられたものではなかった。

本草学というような形で、特志な学者、あるいは研究家、同好者などによって自然科学関係の学問、趣味に関心がもたれていたことは、よく知られているが、しかもそれは実用的な立場から、同志が集まって、もしくは単独で標本を収集し、あるいは、鑑定品評を行なうなど、文献的記録をのこしているが、いわゆる教育という形で知識や技術を習得したというものではなかった。

観念的、抽象的には実証的らしい方法論も、 儒教哲学として支那からの思想がわが国へ入 りこんでいるが、 机上論に終っているものが 多い、また工業ではなく、 工芸技術にはすぐ れたものが支那から 伝承されているが、 科学 と技術が分化発展 してきたとは 認められない。

しかも、科学教育の根底をなす科学精神あるいは科学思想というものが、少数の人たちを除いては、一般的にはまだ芽生えていない。 それには、その時代の社会情勢、たとえば封建的な政治・社会制度、鎖国主義などに禍されて埋もれていたものと考えられる。

このころは、社会情勢による科学精神の不振、封建制度による不安定な社会と、戦乱相次ぐ武家政治、最も科学的知識と技術を要する農業にたずさわる農民の無知である一方、わずかに武芸の需要からの刀剣類に関して、採鉱冶金の技術が発達したに過ぎなかった.

しかし、中には宇田川榕庵のように、化学植物学に関する新知識を組織的に導入解説して紹介し、はじめて科学精神の如何なるものかを伝えたすぐれた学者もあった。化学思想の誕生は、天保8年(1837)榕庵が「舎密開宗」を著わすまで実現されず、その思想が動

きはじめ, 化学研究が始まったのは, 実に明 治時代に入ってからであった.

蘭学の普及するにしたがって, 実証あるいは実験主義的精神は, 医学研究の面に最も強く現われ, 次第に生物学, 物理学, 化学, 天文学等にも及んだ.

なお産業経済を開発しようとして、たとえば、薩摩藩主島津斉彬のごときは、経済の基を物理、化学に求めるべきであるとして、いち早く反射炉の築造、ガラス器、ガス燈、電信機、火薬類、硫酸、硝酸、塩酸等の製造をはじめ、写真術にいたるまでその手を伸ばした。

幕府も各種の自然科学関係の洋書を 飜訳させて, 洋学の普及に努めたが, 「解体新書」をはじめ, 飜訳書の多くは漢文で書かれたために, この種の科学知識が一般大衆の中にまで浸透普及しない憾みがあった.

科学教育の充実をはかり、それを普及させるためには、特に先進国から新知識、技術を 導入する場合には、まず語学の力に俟たなければならないことは、今も昔も変りはない.

それはあたかも2000年も地中に埋もれていたハスの実が、ひとたび発芽に適当な環境に置かれれば、芽を出し、開花することができるように、先進国から科学精神、思想を注ぎこまれて、開発されると、彼国が長い年月をかけてやりとげたことを、極めて短時日間に発展させた明治時代のことを想うとうなずかれるのである。

明治維新を機として自然科学の発達を見たことは、幕末期、1世紀近くの、特に外交関係の圧迫に刺激された多数の蘭学、洋学の徒の努力によって培われた。しかも明治以降の日本の科学は、その初期においては、輸入、移植の科学であったと言われるが、宗教以外の洋書および漢訳の禁の解かれた1720年(享保8年)以後、明治維新(1868)にいたるまでの間における諸外国からの開港要求によって、愛国心が燃え上り、医術を始め、国防上の諸技術面に経験知識もなく、わずかに彼国

の文献と、それを不完全に読解する乏しい語 学力以外にたよるものなく、しかもなお文化 輸入を受け入れる素地を築いていった点には 頭の下がる想いがする.

薬学は、今日のように分化するまでは、ま さしく医学の一部門として包含されていたこ とを史的に知るならば、薬学の発祥を知るた めには、まず最も密接な関係にある医学教育 の歩みの跡をたずねなければならない。

医学教育機関の沿革をたずねるには、安政2年(1855),幕府に洋学所を創設したことにさかのぼって考えなければ、その後につづくめまぐるしいまでの変遷の跡を知ることは容易ではない。

そして、東京医学校に初めて 製薬学科が設置されたのは、 明治 9 年 (1876) であるが、その間の推移は、 次の表で示したとおりであ

る. 製薬学科とはいうものの, 今日の薬学の 教育内容のそれとは, 教育理念も, 教育課程 も, 教育設備も, 教育の任に当る者も, 格段 の相違があったことは, いうまでもない.

一方、未だ一般に産業と科学研究との結び付きもほとんどがなく、産業界でも、技術的に研究を進めようとする傾向も見えなかった。また、科学上の発明、発見に見るべきものなく、たとえあったしても、それを工業的規模で企業化することは少なかった。 さらに、すぐ収益をあげることができるという見透しもつかないので、科学の基礎研究に対しては、企業家は、ほとんど理解がなく、関心も薄かった。

したがって, この時代の自然科学界は, 外国からの知識, 技術の移入, 伝来によって刺激され, 促されて発達して行ったと言っても

西歷		事	項	西歷		事	項
1855	安政 2	幕府に洋学所を開設	,	1868	慶応 4	徳川慶喜政権を奉還し 入り,幕府の設置せる	
56	安政 3	洋学所を蕃書調所と	改称	"	明治 1	①開成所を開成学校とを医学校と改称.	改称,②医学所
57	安政 4	蕃書調所を開く.		69	明治 2	1月から開講,7月昌学問所=昌平黌)を本に統合され,その分局	校とする大学校
58	安政 5	江戸の蘭学者たち, 育研究および種痘普				開成学校を大学南校とは大学東校と改称.	改称,②医学所
59	安政 6	を造る. シーボルト,再度長	崎に来る.	1871	明治 4	大学の廃止, 文部省の 立, 文部省の所管とな 称. 一時閉鎖したが 開, 外人教師を雇入れ	学制を改めて再
1860	万延 1	種痘所を幕府の経営 と改称.	に移し西洋医学所	72	明治 5	南校を第一大学区第 - 称.	-番中学校 と 改
61	文久 1	大槻俊斎に次いで緒 り,学制を改め,医		73	明治 6	再度開成学校と改称.	
62	文久 2	蕃書調所を洋書調所	と改称.	71	明治 7	東京開成学校と改称. 学校と改称,	医学校を東京医
63	文久 3	洋書調所を開成所と	改称.	76	明治 9	7月25日, 文部省布達学科設置, 公布.	第 104 号で製薬
64	元治 1			77	明治10	東京開成学校,東京医学 東京大学を新設.	学校を合併して,
65	慶応 1	オランダの学則に準 剖学,生理学,病理 外科の七科を置く.		78	明治11	はじめて 製薬学本科卒す.	文業生9名を出
67	慶応 3	明治天皇即位,王政	復古.	79	明治12	第2回卒業生10名とと 称号を受ける.	もに,製薬士の

過言ではなく,特に重工業は,官営事業から 始まり,民間に範を示し,のち民営に払下げ られるというケースが多かった.

明治維新後,日清戦争にいたるまでの間は,農業が生産部面の首位を占めていたが,日清,日露の両戦役に戦い勝った結果,資本主義経済の発達によって,一般化学工業は,ようやく興隆の機運を見せはじめた。なお,明治時代と対比する意味で,その後につづく大正時代初期の事情に触れて見よう.

大正3年 (1914) 第一次世界大戦の勃発の影響によって、染料、医薬品の輸入が途絶したため、市価が暴騰して市場が混乱したばかりでなく、産業、医療部面へも支障を来たしたので、にわかに国内の自給自足に迫られ、官民協力してあらゆる対策を尽したが、戦争による経済波瀾の変動には耐えられなかった。すなわち、染料工業をはじめ、各種化学工業は、興隆をはかる絶好の機会に出合ったのであるが、基礎的、理論的の研究が未熟であったために、組織的に工業化企画をたてることができず、徒らに思案にくれているという有様であった.

製薬工業に関しては、わずかに、時の内務省の東京、大阪両衛生試験所内の臨時製薬調査部の試験的製造の報告が行なわれ、民間の製薬企業を指導育成に努めたが、これも実験規模に終り、合成技術による工業化は未だしの感があった。この事は、関連産業の幼稚であったことと、科学教育の面においても基礎的の理論、実験的の研究が満足に行なわれていなかったため、規模の大きな工業化企画に応ずる正確なデータも得られなかったので、設備、原材料はもとより、技術面でも自信を欠いたことも止むを得なかったのであろう。

やがて世界大戦は終結を告げ、ドイツ産業 界が復興するとともに、敗戦によって失った 市場回復のために、ドイツの積極的な商策に 圧されて、再び染料、医薬その他のドイツ製 品が輸入されるにいたり、まさに 興ろうとす るわが国の化学工業、製薬工業の 芽は伸び悩 んだ.この事実は、今さらながら、スケールの大きな工業を確立するためには、基本的な理論と実際に基盤を置かなければ成功することは不可能であるという教訓を与えたものであった.すなわち、科学教育の重要性を痛感したのであった.

理化学研究所は、このような情勢の下に半 官半民の形で設立され、その他多くの研究所 が、この期を画して生まれているが、科学施 設に見られる後進性については、心ある者は 自然科学に理解のない政治家、あるいは文学、 芸術、哲学、等の教養を持たぬ科学者たちが、 相まって学問、真理に対する熱意を欠いた結 果であるとさえ考えた。

また,日本人は模倣性がすぐれていると言 われるが果してそうであろうか.この事は, 長い鎖国期間を経て開国された以後のある時 代は,外国との間に大きな差が 生じていたの で, そのギャップを短期間にうずめるために, 必要なものを摂取するという意図で、 模倣す るという手段をとったことも 当然であろう. われわれが今日,新しいものを開発しようと する場合においても、他によってなされた研 究業績, 実績を調査し, あるいは文献をさぐ り、それに範をとり、参考とし、それを土台 とし研究を進めるということは常法にさえな っている. これを模倣というならば、まず模 倣して, しかるのち改善し, より優秀なもの を造り出すということは 成功への捷径を行く ことでもあり、 賢明でさえあると考えられて いる.

くり返すようであるが、明治維新は、わが 国の従来の封建制度を、政治、法律、経済、 教育、軍事、外交等あらゆる社会制度にわた って改革することを促した。そのため、まず、 すでに先進国である欧米諸国に、範をとらな ければならなかった。それには、前述のよう に外人教師あるいは海外留学の経験者によっ て、外国語による外国の原書をテキストに用 いる講義によるなど、科学教育は異常な熱意 を以って行なわれた。 研究は、国際的に国や人種の別を超えて相 互に啓発され刺激を受けて発達して行くもの であり、如何なる国家も、個人も他の影響、 恩恵に与からないということはあり得ない。

日清,日露の両戦役を経て大正3年の第一次世界大戦開始にいたるまでの20余年間は,いわば,わが国の科学教育が,ようやく外国依存の域を脱して次第にその研究業績の水準を高めようとしつつあった時代ということができる。しかも,この第一次世界大戦によって,わが国は,欧州諸国のように財政的危機に陥ることもなく,かえって急速に発展した工業のために戦時利得も莫大な額に達し、対

外債務を有利に解消することができた. 貿易の伸展, 文那, 満州に対する投資も 意欲的に行なわれ, 国力の充実することと相まって私立大学の開設を含む教育機関の拡張, 各種研究所の増設も成り, 科学教育, 研究も従来の官立大学中心からようやく民間にも移り, 普及されるにいたった.

かくして、明治、大正、昭和と時代は移ってきたが、明治 100 年を迎えるという昨今、 わが科学界が世界に示す業績の中には 幾多の 世界的レベルに達するものがあることは、こ のような歴史的背景の下に生い立った もので あることを想わなければならない。

美容のヒフ科学

関東逓信病院部長 安 田 利 顕 著 増刷2版

著者がヒフに対するキャッチ・フレーズとして「ヒフは生きている」といっているようにヒフは、使った化粧品によって不気嫌になったり、また怒ったりもするので、美容についてヒフ・毛・爪の正しい知識が必要である。本書はヒフ科医としての専門家の立場から、化粧品業者、美容師、また一般の方々のために、生体の面からみた美容についての正しい知識を書いたものである。

A 5 判 250頁 插図41上製 定価 1,200円 〒90円

副腎皮質ホルモンと ACTHの正しい使い方

東大名誉教授 冲 中 重 雄 編 東大名誉教授 三木 威勇治

増刷2版

「副腎皮質ホルモン及び ACTH」 は著効のある反面,種々の副作用もあり,適応や使用方法に微妙な点が多い。本書は,適応症,症状に応じての投与分量,投与の時期,增量,減量,中止の時期,他薬との併用,副作用及びその対策について斯学の権威者が共同執筆し,その正しい使い方を示したものである。巻末には読者の便をはかり「製剤一覧」を収録した。

A 5 判 242頁 上製 定価1,200円 〒90円

下 総 薬 園 考

三 堀 三 郎*

千葉県において下総台地とよばれている地域は、北西部野田市の南辺から起って、松戸市の東部、船橋市の中部を貫いて因幡沼を抱いて東方に走る一帯の台地であり、千葉県の約35%を占める広大な地域である。

この地帯は、往古富士箱根の大噴火による 火山灰の堆積したもので、関東ロームとよば れる赤土の洪積層で、その上層は一般に黒褐 色の有機質土壌で被われていて大きい起伏は 無く、海抜20~50mの原生原野である。

この原生原野の台地は、永年にわたる住民の定着にともなって、焼畑や平地造林が行われ、江戸時代に到って一部は幕府の野馬放牧場となっていたり、一部は下総の豪族千葉氏の放牧場となっていたこともあったので、この台地には、青馬、駒返、馬洗、馬波、野馬込、駒井野、取香(とっこう、捕駒の転)などの旧地名が残っている。

元禄年間にはこの地方の良馬は幕府に 献上 され,残る野馬は土民に与えられていた.



徳川八代将軍吉宗は、殖産興業に力をつく し、更に医薬の業を促進し、薬草の生産に大 いに力をつくし、諸国に薬草採集の 使 を 派 し、江戸にも駒場、小石川の薬園を拓いて薬 草の製産を促した。

享保7年4月,下総牧場の一部(千葉郡小金原)の滝台野(現在船橋市薬園台町及び隣接の習志野町にわたる地域)に30万坪を劃し,その15万坪を当時江戸居住の桐山太右衛門に薬草の栽培を命じ,残る15万坪は,当時江戸居住の丹羽正伯に薬草の栽培を命じた.

桐山太右衛門は, 当時江戸本町に薬種問屋 を営み, 江戸本町薬種問屋25軒の長をつと め、幕府の和薬改会所の開設にも大いに尽力 した者でもあり 薬草にくわしく、幕府の御用 で各地の山野に薬草採集もしていた.

丹羽正伯は、伊勢松阪の人、代々医家であった。幕府に召されて江戸に出仕し、享保5年以来、相模、伊豆、富士山、甲斐、信濃、日光山等に派遣されて薬草見分を仰付かり、享保7年4月江戸城に召され、一代限り30人扶持を賜わり、幕府の御用医師を仰付けられ、前記小金原の一部15万坪を拝領し薬草栽培を管理していた。この時正伯が幕府から薬草栽培を合ぜられた文言は、次の通りのものと伝えられている。

其方事薬草之儀能覚罷有,近年度々御用相勤候に付て被召出,参拾人扶持被下置,御医師並被仰付候. 薬草作り候地追て可相渡候間薬草作らせ可申候.

御扶持方は其方一代斗被下置候.

更に同年の別の書に,

下総国千葉郡小金野之内 滝台野参拾万坪 之場所内拾五万坪之所え 和薬作らせ御用 の薬種相納, 其外は被下候間, 其助成を 以年々多く作らせ, 世上に出候様に可致 候. 残る拾五万坪は桐山太右衛門に被下 候間, 諸事致差図, 是又和薬作らせ可申 候. 但薬草作り候助力の為当分米穀等耕 作仕候儀勝手次第に可仕候. 然共,拾五 万坪之内耕作仕候場所二三万坪には不可 過候. この段みだりに無之様急度可相心 得候.



桐山太右衛門は、薬草栽培の命を受けるや江戸から小金原に移住した.

丹羽,桐山とも15万坪の内 $2\sim3$ 万坪は農 民を入れて開墾 $\hat{1}$,米穀を作ることを許可さ

* 東邦大学

れていた.

丹羽,桐山とも各々の薬園内に生産した薬草の一部を幕府に納入し、余剰の分は、市場に販売することを許されていた.

後年にいたって, これらの薬園に朝鮮人参 の栽培が命ぜられたと伝えられている.

以上の下総薬園創設の時, 丹羽正伯は32才, 桐山太右衛門は46才であったが, 薬物に関する知識は, 正伯の方が上位であったのと, 地位も上位であったので, 太右衛門は正伯の差図を受けることになっていたと 伝えられている.

太右衛門が江戸から薬園の地に移住した年 月は明らかでないが、享保7年7月頃は江戸 に居住していたことから、薬園へはその後の 移住と考えられる. 移住後享和11年3月20日 にこの地で死去し, この地に葬られている. 法号は観草軒法随玄哲で亨年50才であった.

太右衛門は男子がなかったので、薬園の経 営も太右衛門一代限りであったと 考えられて いる.

下総薬園に関する限り以上の記述は、 概ね 船橋市史の資料に拠るところが多い.



以上薬園の現在位置は,現在船橋市滝台町に隣接する薬園台町とその東に隣接する自衛隊地(往昔の習志野部隊地)及びこれに隣接する船橋市習志野町を含む一帯の 曠大な地域で,正に往昔の下総薬園の地であることは明かである。

製薬業者・医薬関係者の必読書!

日本製薬技術史の研究

宗 田 - 著 上質紙美装本

わ が 国 の製薬技術はどのようにして発達してきたか、本書は古代 から上代・中世から近世・洋方製薬技術の伝来から幕末の製薬に至るまで、貴重な文献多数を引用し、また珍らしい写真図解を数 多く插入し、非常に興味深く解説している。

製薬技 術の生い立ちを知る上に他に類を見ないまとまった唯一の書というべく、この機会に、製薬業者は勿論、医薬に携さわる関係者にゼヒー読をお奨めしたい。

東京都神田和泉町1-11 電話東京(866)2037·8407 振替 東京80665番

薬事日報社

大阪市東区道修町 2-19 山口ビル内 電話大阪(203)4191~4

*4112B

リュードルフ・レーマン小伝

木 村 雄 四 郎*

Oはじめに

明治維新を契機としこれが国の文明開化に寄与した有識の欧米人の多くは、その業績も明かにされ、それぞれの方法で顕彰されているが未だその選に洩れている人達も少くない。今や明治百年を迎えるに当り、このような外人の事績を調べることもまた、わが国の文化史に携わるものの使命の一つでもあろう。

リュードルフ・レーマン (Rudolf Lehmann) は、わが国での独逸語教育の始祖であって、明治3年 (1870) 10月京都の欧学舎に迎えられ明治12年8月 欧学舎の独逸学校が廃止される迄、独逸語教育に従い多数の人材を育成する傍ら造船、製紙、牧畜などの殖産興業の開発に寄与した恩人であると共に、今日の京都薬科大学こそレーマンの門人達によって結成されたレーマン会が私立独逸語学校に別科として薬学科を創設したことに端を発するものである.

たまたま昭和39年創立80周年を迎えた京都 薬科大学は80年史を編纂するためレーマンの 事績を八方調査中奇しくも同年8月東京雑司 谷墓地にレーマンの墓所が発見された.

私は畏友佐野十九一氏から早速レーマンの 墓と資料調査を委嘱され、若干の資料を得た ので折柄、京都薬科大学創立につながる恩人 としてレーマンを紹介するため昭和39年11月 21日、本会の集談会で発表した。本稿はその 概要に多少加筆したものである。

〇 生い立ち

リュードルフ・レーマンは 天保 13 年 10 月 15日 (1842) 独逸 Oldenburg に生れ, 父の Adolf Lehmann は当時独逸の控訴院一等判

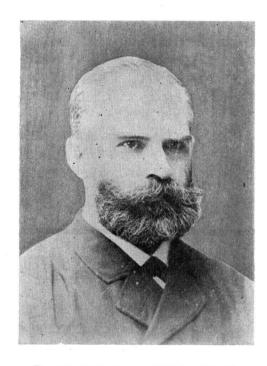


Fig. 1. Rudof Lehmann (明治22~25年頃)

事であった。中学と高等学校とを Karlsruhe と Leyden に 学び、 Karlsruhe の工業大学 (Techinische Hochschule) の土木工学科で 河海工業と土木工学を専攻し、 卒業後は土木工事に従ったといわれる。

〇 鋼鉄製川蒸気船を造る

明治2年 (1869) 27才で単身渡日し、大阪 川口の居留地で先着の令兄が経営していた貿 易商 Lehmann・Hartman & Co. LTD. に 勤めその事業に協力した. 彼の日本での初仕 事は輸入の鋼板を組立てて3艘の鋼鉄製の川 蒸気船を建造したことで淀川水域で伏見、大 阪間の船運に役立った. これは、わが国最初 の鋼鉄船であり、このことは明治工業史造船 篇に詳しい.

^{*} 日本大学理工学部薬学科

〇 独逸語教育の始祖

折から京都は東京遷都の後を受けて日と共に衰微したので時の大参事(後の京都府知事) 槇村正直は京都府顧問の 蘭学者山本覚馬や科 学者明石博高の献策を容れて広く西欧の文化 を取り入れ、殖産興業を計るため外人教師を 迎えて語学教育を行うことになり レーマンが 大阪から迎えられた.

このことについて明治3年11月京都府では次のような布達を出している.

『各国御交際ノ道相開ケ, 広ク世界ノ知識 ヲ求メサセラレ候ニ就テハ西洋諸種ノ学追々 伝播相成ルベク, ソノ内第一ニ言語, 算数等 海外諸国ニ通ズル事即今ノ急務ニ付キ, 普魯 西人リュウドルフ・レーマンヲ京都府へ雇入 レ仏, 英, 蘭, 独等の語学並数学教授セシメ 候条, 当官管轄華族以下伝習致シ度キ望ノ者 ハ可願出候。但シ諸藩士族等ハ当地詰合ノ向 伝習望ノ者ハ, ソノ藩邸ョリ京都府ニ可願出 事. 』

レーマンは明治3年10月8日京都市河原町二条の角倉邸に設けられた角倉洋学所に入り京都府雇となったが京都府との契約書によると、明治3年11月から明治14年12月まで建築技師並びに語学教師として雇傭されたもので、初め月手当は200円であったが、1年後に275円に昇給している。また角倉洋学所は翌4年3月河原町二条下ル長州及び加州屋敷跡の勧業場内に移転し欧学舎と改め、まず独逸学校を開き、同年4月27日河原町二条上ル真宗高田派別院内に米人 Charles Bolduinによって英語学校を、また同年10月20日木屋町三条下ルに仏語学校を仏人 Leon Dury によって開校した。

ともあれこの当時は未だ攘夷的思想も多分に残っていたので学校の門口には竹矢来を設け邏卒(今の警察官)が警護し、かつ外人教師の出入には幾人かが護衛として附添ったといわれる.

欧学舎は明治6年6月 (1873) 二条城の北

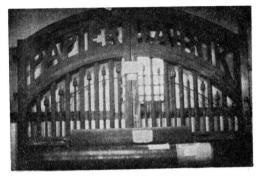


Fig. 2. Papier Fabrik (京都・梅津)の門扉, 製紙博物館にて

,今の京都府庁所在地に新築し、欧学舎独逸 学校と改め、同年5月独逸学校に医学予備科 を設けて医学志望者に独逸語を教えたが12年 5月独逸学校は京都医学校に合併して廃校と なり、学生の大半は医学校に進学した.激動 する明治初年の世相の一端を伺い知ることが できる. すなわちこの独逸語学校こそ今日の 京都府立医科大学の基礎となり、英学校はか つての京都府立第一中学校であり、現在の府 立洛北高等学校の前身である.

斯くてレーマンは解職後も任期満了まで京都に止まり、明治15年 (1882) 2月東京に移住した.

〇 最初の独逸語辞書

レーマンは京都で独逸語教師をつとめた頃 前後3回にわたって和訳独逸語辞書を出版し ていることも独逸語教育上注目に値する,す なわち明治5年,和訳独逸語辞書2冊(京都 大学図書館所蔵),同6年9月和訳独逸語辞 書2冊(滋賀大学学芸部図書館所蔵)および 明治10年東京で和独対訳字林1冊(京都薬科 大学図書館所蔵)のそれであって,けだしわ が国最初の和独辞典とされている,

O レーマン会と京都薬科大学 の礎石

レーマンは温厚篤実で徳望が高く,教育に 頗る熱心且つ懇切であったので,多くの人材 が育成された.すなわち彼の薫陶を受けた門 人らによってレーマン会が結成され、彼の入路を機会に屢々会合を催して師恩を謝したが、やがて門人の雨宮菊太郎、原口隆造、中川重麗、下河辺光行、上田勝行、栗生光謙、小泉俊太郎、半井澄ら18名の発起により財団法人京都独逸学会が創設された。次いでこれらの人達の発起により180名の寄附金を集めて、明治17年4月15日(1884)京都市上京区銀冶屋町38番戸に私立京都独逸学校を開設し、初代校長に中川重麗が就任し、明治19年10月別科として薬学科を併設した。この薬学科こそ今日の京都薬科大学の礎石であって、いわばレーマンの徳望によって誕生したものといえよう。

今,当時の経緯を調べると明治7年初めて 医薬の法令として医制が公布されて, (1874) わが国の医事制度の基礎が確立され, 薬剤師 の前身である薬舗主の資格や免許試験のこと が規定されたが, これらの規則も当時のわが 国の文化や国内事情から勘案して,まず東京, 京都,大阪の3府に限って実施されたので私 立京都独逸学校に別科として薬学科が併設さ れたのも,まず薬舗主を養成する目的で初歩 的な薬学教育を初めたものであるが,けだし 時代の要求によって生れたものである.

○ パピール・ファブリック

レーマンは、ひとり独逸語のみでなく英、 仏語に長じ、その非凡な才能は、建築技師と しても京都の文明開化に寄与するところ極め て大きく、槇村知事の顧問格として、各種の 企業の献策を行ったが、その一つにわが国最 初の洋紙製造工場パピール・ファブリックが ある。すなわち、明治6年5月京都梅津の桂 川左岸に水車で水力を利用し梅津製紙場(パ ピール・ファブリック)を建設に着工し、独 逸より抄紙技師オットマン・エキスネルを招 くと共に、抄紙機械を輸入し、ボロを原料と して同9年1月13日開業したが、同13年には 磯野小右衛門に払下げられ次で東京抄紙会社 と合併し今日の王子製紙株式会社に発展した ものでこのパピール・ファブリックこそは、 わが国洋紙製造工場の元祖といわれる。今, 東京,王子の財団法人製紙博物館には当時の 門扉が現存し門扉の左側に PAPIER,右側に FABRIK の独逸語名がくりぬかれてあると ころなど,いかにも独逸語の教師らしく,ま た建築技師として彼の設計が細心でどのよう なものであったかの一端を知ることができ る。

〇 わが国最初の牧畜場

またレーマンの進言により 明治 4 年10月京都府愛宕郡吉田村の当時兵部省練兵場 29,026坪を買収して牧畜場とし、府当局からアメリカ産牛の購入方を申請して、牡牛2頭、牝牛25頭、牡羊2頭、牝羊12頭を輸入し、アメリカ人牧畜技師を斡旋して、わが国最初の牧畜場を設置した。

このようにレーマンは京都の産業と文化の 近代化をおしすすめた恩人であって、独逸人 Gottfrid Wagner や仏人 Leon Dury と共に 京都の産業開発の基盤を造った足跡は大き

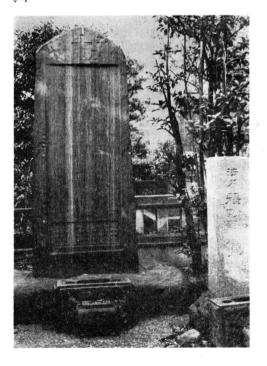


Fig. 3. レーマン家の墓(東京雑司谷霊園にて)

〇 日独文化の交流

彼は明治15年2月家族と共に東京に移住すると共に2月から東京外国語学校で, さらに同17年9月 (1884) から23年まで東京大学予備門で独逸語教師をつとめたが, 23年 (1896) 貿易商 M. Raspe & Co. 1 の機械部主任となり次で支配人として日独貿易に寄与し、傍ら独逸アジア協会 (Deutsehe Gesellschaft für Natur und Volker Kunde Ost. Asien)の創立に参劃し、副会長を経て会長に就任し日独文化の交流に貢献したが、大正3年2月4日 (1914) 急性肺炎により72才で逝去した。日本政府は、生前の勲功により勲五等旭日章を授け、独逸政府からは王冠章2等を授与され、かつプロシヤ国名誉博士を贈られている。

〇 レーマンの家族

なおレーマンは明治10年頃京都で由緒ある日本婦人、木田ベンを娶って妻とし、五男一女をもうけた.すなわち長女たに、長男 Karl、次男 Adolph、三男 Rudolf、四男 Walter、五男 Fritz で次男 Adolph の他はいずれも独逸で教育したが、ひとり次男の Adolph は、氏の後継者として両親の膝下で教育中不幸にも明治44年2月13日第一高等学校在学中腸チフスを患い22才の若さで死去した、当時は、小石川区同心町30番地(もとの小石川区役所々在地)の住宅に近い雑司谷霊園に葬ったもので同霊園第4号右側15番のレーマン家の墓所にはその後リュードルフ・レーマン並びに昭和7年6月24日急性肺炎で76才で亡くなった妻ベンと共に埋葬されている、

〇 レーマン家の墓地

レーマン家の墓は遺族が独逸に 在住するためほとんど無縁の状態であったことは 墓域に植えられた 左右一対のキンモクセイが繁茂してすっかり墓石を覆い そのため外人墓の研究家の間にも久しく 不明とされていたものであ

る. 墓地の面積は 9,915m² (3 坪)で四囲を低い鉄柵で囲み、中央の墓石は台石の上に高さ 180cm. 底面の巾 77.5cm. 厚さ 16cm からなる自然石が建てられ、南面して上からAdolph、Rudolf、Ben の順にそれぞれ出生地. 生年月日と死亡地および死亡年月日が刻まれその下段にヨハネ伝8章の 31.32 の聖句が独逸語で刻まれている. 墓は純日本式で前面に花立て、ローソク立を設け、その右側には法名を刻んだベン夫人の墓が別に建てられ一対の献燈がある.

私は墓地の所在が明らかにされた 昭和39年の秋晴れの一日,親しく雑司谷霊園にレーマン家の墓に お詣りし在りし日のレーマンの偉業を偲び,いつの日にか有志達によって顕彰碑を建てたいものと念願した.

因に京都薬科大学では リュードルフ・レーマン墓地保存会を設けて 墓の管理と祭祀とを 行う計画が進められている.

終りに臨み本資料の調査の機会を与えられた畏友佐野十九一氏並びに 貴重な資料について御教示を 戴いた東京都・都政史料館の 手塚竜磨,中央大学講師阿部秀夫, 製紙博物館佐藤秀太郎の各位に対し厚く御礼を申上げます.

参考文献

- 1) 重久篤太郎:同志社高商論叢 11輯 (昭和9年)
- 2) 明治文化と明石博高翁 104—106 (昭和17年)
- 3) 成田 潔英:紙業叢書 第2編 192—201 (昭和27年)
- 4) 成田 潔英:王子製紙社史附録編 36—49 (昭和34年)
- 5) 手塚 竜鷹: 洛味 No.144. 14—19 (昭和39年)
- 6) 京都薬科大学八十年史 179—289 (昭和39年)
- 7) 日本工業史化学工業篇(869)
- 8) 木村雄四郎:京薬会誌 No.42 (昭和39年)
- 9) 徳岡 睦正:京薬会誌 No.43 (昭和40年) 以 上

八十才をこえて(遺稿)

山 科 撨作

台がわり

私は明治16年,即ち1883年に地球にあらわれたので、ことし昭和39年は満80才になる. よくまあ心臓が動きつづけたものである.

業界でも高齢者は段々少なくなって,現在私の知っている所では,90幾才で矍鑠としている小西老翁や,過日米寿の祝をされた林四郎君などで,同学の先輩には,田口文太,奥野政蔵,東京薬科大学の学長村山義温,本郷薬局の田中秀介,関西で自適していられる松南千寿などの諸氏位のもので,私の同級生はみな物故し,私一人生き残った.心細いことである.

よく台がわりといって、10代毎に体質その他に違和を感ずるものであるが、80代となると、今までの台代りのより、ずっと変化を認め、気力が衰えはじめる。これではいけないと云いきかせて努力するが、余り効果はないようである。

教職 3 カ月

私は大学を卒業して、1年志願兵として軍隊生活を送った. ちょうど熊本の九州薬学専門学校(現熊本大学薬学部)に、生薬学の講義をする適任者がなく、学校も卒業させることが出来ず困って、時の校長安香堯行博士が、東大の下山教授に懇請のため上京された.

下山教室にいた私が呼ばれて, ひとつ熊本 へ行って生薬の講義をしてくれ, 終ったらす ぐそのまま帰ってもよい, またよい所を世話 してやるとの厳命であった.

私はもともと教師は蓄音機のような気がして、大きらいであったが、今回かぎりでよいとのことで、先生の厳命もあり、しぶしぶ赴任し、1年間でやる講義を、3ヵ月ほとんど

毎日長講3時間でやった.

時は初夏のことであるし、面白くもない生薬の長時間講義ときているので、講義する方も聴くほうもいやだから、講義の間に東京の芝居ばなしなどを入れて、やっとその責を果したが、学生の中には、先生眠いから外へ出して下さい、などという乱暴者もいたが、概ね好評であった。

これでやっとの思いで郷里広島に帰り、さてこれからどうしたものかと 思案の最中に、東京の池口慶三博士から、至急上京せよとの電報が来た、熊本へ赴任前に、広島で池口博士にお目にかかる機会があり、私の本意ではないが、安香博士の顔を立てて熊本へ行きますが、講義をすませたら辞任して帰郷しますから、どこかよい会社がありましたら、お願いしたいと、お頼みしておいたからであった。

三共生活50余年

雀躍して上京し、池口博士にお目にかかると、三共の越沢渦満君が辞任したから、三共へ入社したらどうかと話され、すでに三共にいた同窓足立家薬学博士からも、入社をすすめられて、一もこもなく承諾した.

早速時の専務塩原又策氏(後の社長,三共株式会社創始者)に挨拶に行って入社がきまり、品川工場試験室勤務となり、工場長湯浅武孫氏の下で、タカデアスターゼの力価検定法の研究にとりかかった。そのころタカデアスターゼの力価検定法は、フェーリング氏液を使っての検定法で、余り正確なものではないので、アリン氏管を使って重量法にしようと苦心し、約半年も毎日実験をつづけたが、とうとう成功しなかった。

当時の品川工場は総勢100名内外で、その大部分は女従業員(その頃の言葉で女工さん)で、自社品は少なく、ほとんどパークデービスその他の輸入品の小分包装であった。

女工さんは作業中は前掛をしていたが,通 勤は,ほとんど和服で日本髪であった.女工 の主任者は佐野嘉吉君で女工さんの元締みた いなもので,その補佐役におなかさん,おし げさんなどの女工長がいて、お師匠さんと呼 んでいた.お正月の仕事始めなどは,髪も島 田が多く,振袖などを着て,華やかなものだ った.いわば,平素働いた成果を示すような ものであった.

奥の大作業場では,元学術顧問の東大教授 下山順一郎先生が創製された,ファゴール, チオールなどの新薬を製造していた.下山先 生は私の入社以前に亡くなられた.

他の一室では、田原良純博士創製の河豚毒素テトロドトキシンの製薬場があって、博士の直弟子山本正巳君が主任技術者で、助手に三浦君、女工におしゅんさんがいた。 奥の一角には 度量器 の製造といっても 度盛であるが、衛生試験所から入社した丸山長四郎君などの特殊的存在があった.

向って右側の建物には、中村晴吉君が頑張っていて、朝比奈泰彦先生の子分であった関係で、過酸化水素オキシフルやデギタリス製剤パンギタールの製造をやっていた。そこで中村君のことを通称「中パン」ともいった。今でも忘れられないのは、ちょうど湯浅工場長が洋行中で、私が留守番をしている時に、ある日の午後、中村君の室でエーテルに引火し、室の前の溝に火炎が流れたので、いち早く消しとめて大事に至らなかったのは幸いだ

った。

私の勤めた試験室の隣が研究室で、大岳了 君が鳩を相手にオリザニンを、赤木敦君が乳 酸を、西川忠雄君がベークライトその他を研 究した。これが当社研究部のはじまりで、私 は研究部長、工場長を歴任した。

また思い出は会社記念日の行事であった. そのいきさつは省略して, 記念日の行事としては, エビスの大日本麦酒会社の庭園で園遊会をしたのが第1回で, その後, 伊香保や, 本郷座の沢正総見などもあった. 機械部の連中が半畳を飛ばしたので, 沢正が怒って芝居をやらぬと言い出して, 困ったことがあった. 最後は大阪側と合同で, 賑やかに伊勢参宮であった.

その後、営業部長の古田宗二郎氏の懇請によって営業部に移り、約半年で欧米へ出張を命ぜられた. 1年有半、欧米特に紐育三共支店には前後1年余りも厄介になり、その間に三共社長の高峰譲吉博士が逝去され、その葬儀には会社を代表して参列した.

滞米中,特に米国薬局経営を調査し,帰朝後わが国最初のソーダファウンテンを開設した.その後,支配人,常務取締役を歴任して顧問となり,三共生活50有余年に及び,現在に至っている.

薬の会社で長寿健康であることは、 見本のようなものだと云ってくれる人もあるが、 余命いくばくもあるまいが、 毎日出社して、会社の繁栄と将来の弥栄を楽しんでいられることは、この上もない幸福である.

附記;本稿は「三共往来」から抜萃転載したもので,図らずも絶筆となった(根本曽代子).

日本薬学大会薬史学部会講演集

昭和30年 (東京大学)

4月10日

世界薬学の変遷画展覧

共 山科 撨作

製煉発蒙と遠西二十四方

明治薬大 佐藤文比古

明治・大正時代の道修町及び本町

四郎 林

医薬分業の史的考察

清水藤太郎

高野長英著「客中案証」の薬品について

明治藻大 平賀 敬夫

加賀藩医薬の史的考察

三浦 孝次 金沢大薬学部

日本における中世薬剤師の活動

―関東の外郎に関する研究―

千葉大薬学部 杉山 茂

元禄・享保の頃の本草の性格

大阪大薬学科 高橋真太郎

曼陀羅菫について

昭和薬大 赤松 金芳

クルクマとサフランの考証

大阪大薬学科

〇木村 康一・藤本 豊吉・高橋真太郎

調剤の薬史学的考察

小池三良助

明治時代における薬学研究

東京大裘史学研究会

金岡祐一•北川 勲•名取信策 辰野高司•鄧 素娥•富沢 宏

辻 章夫•山川浩司•米光 宰

昭和31年 (九州大学)

4月9日

初期の軍陣医薬学(I)

明 治 薬 大 〇佐藤文比古

海上自衛隊衛生課 安田 史郎

通俗薬を主とした獣傷救急治方

明 治 薬 大 平賀 敬夫

漢訳医薬学書

明 治 薬 大 立沢政次郎

室町時代の薬種について

(教言卿記を中心として)

久保田収 〇山下武男

本草経の薬品分類について

大阪市東市民病院 高原 篤夫

東京薬大 山科維作 〇川瀬 清

明治期における私立薬学校の特質について

江戸末期における国産生薬の産出状況

野州日光の御種人参栽培の史的考察

星 薬 大 伊沢 一男

民間薬孫太郎虫の史的考察

大阪大薬学部

高橋真太郎 ○高橋嘉門 藤井正義

四神中の朱雀の原植物について

武田薬工研究所 渡辺 武

オランダ船舶載の薬品について

長崎大薬学部 小沢 敏夫

肥前売薬史の考証

鳥 栖 高 校 小林 肇

福岡藩薬園と内海蘭溪

昭和蒸大 赤松 金芳

薬園を中心とした熊本の薬業史

熊本大薬学部 〇宗定哲二 村上誠罄

竜骨, 竜角弁

東邦大薬学部 清水藤太郎

昭和32年 (東京大学)

4月9日

和蘭薬鏡と遠西医方名物考の刊記

明 治 薬 大 佐藤文比古

薬学史研究への民俗学的方法論の導入

岐阜薬大 宮道悦男 ○小瀬洋喜

本草集注の研究(Ⅱ)

病源所主薬による集注の研究

大阪市立東市民病院 高原 篤夫

近世莨菪考

明 治 薬 大 平賀 敬夫

駿府城下における薬史学的資料の研究(I)

静 岡 薬 大 斎藤 幸男

明治維新期の日本薬界の展望

根本曾代子

印籠の史的考察

山下 武雄

安息香の史的考察

昭和藁大 赤松金芳 ○向後恭子

酒 石 考

明治薬大 佐藤文比古 〇橋本孝雄

日本薬局方散薬前史

明 治 薬 大 立沢政次郎

オランダ局方 (ゲールツ先生)

清水藤太郎

昭和33年 (名古屋市公会堂)

4月9日

価値植物としてのオナモミ考

山之内製薬 関屋延雄 〇三浦三郎

野州日光の人参栽培の史的考察(Ⅱ)

星 薬 大 伊沢 一男

駿府城下における薬史学的資料の研究(Ⅱ)

―東海道名物「清見寺膏薬」について―

静 岡 薬 大 斉藤 幸男

愛知県薬業史の研究 (XI)

薬業の集団地域としての京町

愛知県薬剤師協会 深谷 義雄

東海地方における本草学者について

岐阜 薬 大 宮道 悦男

明治初期における医薬品輸出入の概況

慶応大学薬化学研究所 黒田辰一郎

初期陸軍薬局方

明 治 薬 大 佐藤文比古

防衛庁技術研究所 〇遠山秀夫

飲食物の薬史的相関

根本曾代子

蘭方癌治療薬史

明 治 薬 大 小林美代子

蘭方駆虫薬史(I)

ワカ製薬研究室 ○山下泰蔵

明 治 薬 大 佐藤文比古

芳香水剂小史

明 治 薬 大 立沢政治郎

舎利別史略

明 治 薬 大 佐藤文比古

薬科大学における薬史学講義要項

東 邦 大 清水藤太郎

昭和34年 (大阪市商工会議所)

4月9日・10日

日本調剤史(1)医心方

大阪市立東市民病院 高原 篤夫

錠剤小史

明 治 薬 大 立沢政治郎

近代薬学の変遷

根本曾代子

裁判化学の初期史

明 治 藁 大 佐藤文比古

試薬の生い立ち

石津製薬 石津作次郎

毛利藩の薬園

山口県薬剤師協会 樋口 彰一

フリードリッヒ二世の医薬分業令

東 邦 大 清水藤太郎

武蔵野ムラサキと江戸ムラサキ並びに栽培ム

ラサキの疑問

山之内製薬 関屋 延雄 〇三浦三郎

明治37. 8年戦役と薬品

明治薬大 佐藤文比古 防衛庁技術研究本部 ()遠山秀夫

駿府城下における薬史学的資料の研究(Ⅲ)

- 「府中」の薬史学的考察-

静 岡 薬 大 斉藤 幸男

蛔虫駆除薬の史的展望

昭 和 薬 大 赤松 金芳

シーボルト及びその他の人々による 日本にお

ける地衣採集品の史的解説

朝比奈泰彦

昭和35年 (東京大学)

4月5日

土師器式土器時代に栽培されていたエゴマの 品種と史的考察

177575

山之内製薬 三浦 三郎

オランダ医学初期の薬物―特にビリリについて

昭 和 薬 大 赤松 金芳 阿蘭陀薬草功能之書について

明 治 薬 大 佐藤文比古 幕末長崎蘭医の使用した製剤

明治薬大 佐藤文比古 〇橋本孝雄 平賀源内の薬物研究に関する考察

香川県衛生研究所 竹内 虎夫 チンキ小史

明 治 薬 大 立沢政次郎 官版薬局方について

明治薬大 佐藤文比古 防衛庁技術研究本部 ○遠山 秀夫 蜂蜜の東漸史考

根本曾代子

昭和36年 (北海道大学)

7月20日

飯沼慾斎遺稿による採薬地の考察

岐 阜 薬 大

嶋野 武 ○水野瑞夫 江崎秀子 江戸戯作者の売薬(滝沢馬琴)第2報

明 治 薬 大 佐藤文比古 依百乙薬性論と和蘭薬性弁

明治薬大 佐藤文比古 海上自衛隊 ○安田 史郎 日清戦役使用薬品と陸軍薬局方

明治薬大 佐藤文比古 防衛庁技術研究本部 ○遠山 秀夫 近世新薬界の動向

日本薬史学会 根本曾代子 アイヌの薬と日本の民間薬物の形成 について 山之内製薬 三浦 三郎 皮下注射剤の歴史

明 治 薬 大 立沢政次郎 駿府城下における薬史学的資料の研究(IV) 一久能山御薬園に関する追補並びに 明治, 大正時代における静岡地方の薬学の発達―

静 岡 薬 大 斉藤 幸男

旧高松藩の栗林公園

香川県衛研 竹内 虎夫 薬局・局方の語源とその成立の 歴史的背景 大阪大薬学部 高橋真太郎 (特別講演)

北海道の植物雑記

北大農学部教授·植物園長 館脇 操 昭和37年 (静岡薬科大学)

101 - (1111110 XVI

11月3日

薬科大学における薬学史講義内容・総論 東 邦 大 清水藤太郎 薬科大学における薬学史講義の実際

東京 薬 大 寺阪 正信

同上

東邦大三堀三郎

昭和薬科大学における薬学史講義の現状 昭 和 薬 大 赤松 金芳

京都薬科大学における薬学史講義内容の 概要 大阪大薬学部 高橋真太郎

薬学史講義の立脚点と方法論

東京教育大 吉岡 信 中的に教えることについて

千 葉 大 宮木 高明

中 東 ス 呂木 高明 駿府城下における薬史学的資料の研究(V) 一林香寺山椒一

静 岡 薬 大 斎藤 幸男 銅の薬物起元と日本民族成立の問題

山之内製薬 三浦 三郎 飯沼慾斎遺稿による平林荘栽培植物の 考察 岐阜薬大 嶋野 武・水野瑞夫

蘭方駆虫薬史(Ⅱ)

明治薬大 佐藤文比古ワカ製薬 山下 泰蔵

同 (III)

明治薬大 佐藤文比古・橋本 孝雄 文化遺品による薬史的背景

日本薬史学会 根本曾代子 洋方エキス小史

明 治 薬 大 立沢政次郎 サムエル・コッキングとその薬業

東 邦 大 三堀 三郎

昭昭38年 (東京薬科大学)

11月3日

わが国薬業発展の社会的考察=特に 明治維新 を中心にして

千 葉 大 吉岡 信

研究史から見た天然産薬物の研究法

東京薬大川瀬清

日本薬局方中の軟膏の歴史

明 治 薬 大 立沢政次郎

駿府城下における薬史学的資料の研究(VI) 厚生新編の飜訳原稿について

静 岡 葉 大 斎藤 幸男 葷菜コエンドロ考

山之内製薬 三浦 三郎

アロエの史的考察

昭和蒙大 赤松金芳 向後恭子 蘭方駆虫薬史(第4報)

明 治 薬 大 佐藤文比古 蘭方駆虫薬史(第5報)

ワ カ 研 山下 泰蔵明 治 薬 大 佐藤文比古

製薬革命の近代的要素

根本曾代子

(特別講演) 11月2日

明治時代におけるわが国の製薬の 史的考察

東京理大 吉井千代田

近世における日本薬園史

日大薬学科 木村雄四郎

江戸時代の初期における製薬史

東 邦 大 清水藤太郎

昭和39年 (東京大学)

4月6日

井の頭弁天"紫灯籠"の薬史学的側面

山之内製薬 三浦 三郎

南蛮医决野忠庵 (Cristonao Ferrieira) につ

いて

山 口 県 樋口 彰一 森立之とその自筆稿本「神農本草経攷注」に ついて

昭 和 薬 大 赤松 金芳 江戸期の禁書者

明 治 薬 大 佐藤文比古

蘭方駆虫薬史(第6報)

ワカ製薬 山下 泰蔵

明 治 薬 大 佐藤文比古

蘭史学研究の方法論的考察について

千 葉 大 吉岡 信

日本の新薬宣伝史

林 四郎 立沢政次郎

丸剤小史 明治薬大

(特別講演) 4月6日午後

江戸時代における民間薬史

東 邦 大 清水藤太郎

近世における日本薬園史

大正時代におけるわが国の製薬の史的考察

東 京 理 大 吉井千代田

パネル討論「蒸史学研究の現状と今後の問題

点」

共立薬大石坂 哲夫金沢大三浦 孝次

吉 富 製 薬 宗田 一

昭和40年 (徳島大学)

10月28日

藍製剤の薬能(制ガン)

東 邦 大 清水藤太郎

神農伝説の分析とわが国の農耕儀礼

山之内製薬 三浦 三郎

南蛮医術の用薬と方剤研究について

樋口 彰一

伊吹山蒸園考

カイゲン柏原工場 清水 正二 蜀本草の研究―証類本草に新注加された 所謂 唐本草について

京 大 野淵 紘・木村康一・木島正夫 西讃岐地方にて見つけた古文献

四国鉄道局 秋元 秀夫 杉田玄端の訳述書

明 治 薬 大 佐藤文比古

あとがき

日本薬史学会の機関誌「薬史学雑誌」は,ようやく創刊号を世に出すことができた。本会創立以来,各年次日本薬学大会における薬史学部会で,会員各位によって行なわれた学術講演の演題ならびに演者の記録をながめると,昭和40年にいたるまでの薬史学研究の十年の歩みは,会員数はすくないながらも,多彩な姿を示しているように思う。

しかし、薬史学の在り方からすれば、あきたらぬものも散見される一方、今後機関誌を通じて、今さらながら、史学の何たるかについて、まともな認識と理解を得たいものと思わないわけにはいかない。

それゆえに,二年ほど以前から,薬史学会の発展 をはかるため,会員中の同志たちが勉強の場をつく るために,随時集談会を開いて,およそ薬史学的な 話題をもちより,講演,見学,文献供覧などによっ て見聞をひろめてきた. また、従来、薬史学会関係の主要な記録は「薬局」 誌あるいは「薬事日報」紙上に掲載されることが多 かったが、今後は本機関誌は、会員の研究発表のほ か、薬史学関係の 会合、消息など をあまさず 記録 し、伝えることに役立ちたい。

本誌刊行については、これまでにもしばしば幹事会の議題に上ったが、種々な事情によってその実現が延び延びになり、結局はじめての機関誌でもあるので、まず各幹事分担して記事内容を整えようということになった。 歳末忽忙の裡に 原稿締切 から校正, 印刷といささかあわただしい時が過ぎた.

創刊号を一つのモデルとして、今後ひろく読者の ご**叱**正をいただき、よりよい 雑誌 をつくり 上げた い.

なお、創刊号成るに際し、題字"薬史学雑誌"の 揮毫ならびに発刊之辞を寄せられた朝比奈会長、発 刊に当って所感文をいただいた村山先生をはじめ、 寄稿者、広告贊助者の各位に対しても深く感謝する 次第である: (吉井)

新薬の動向を示す一番新しい新薬宝典!

第17集 最近の新薬

1966年版

A 5 判 370頁 価 900 円 **〒**70

1~17集揃7000円〒実費



公正かつ正確に解説した新薬集/トピックとしてDI・文献整理などに今後ますます重視される「医薬品の薬効分類について」の解説 1965年発表の米国USANとWHOの国際一般名の比較一覧表を掲ぐ

薬品取扱者 41 医薬品 価格表 のトラの巻 41 年版 医療用品 価格表

B 5 判 470 頁上製本 価 2000 円 〒 90

東京医薬品 身近な品質管理

A 5 判 110 頁上製本 価 350 円 〒 65

蛐╶⋇日本製薬技術史

限定版A 5 判 138頁 価 650 円 〒 70

A 5 判 480 頁上製本 価 2000 円 〒 90

調剤指針の注解書で指針に記載のない事項も解説、薬大教材、国家試験参考書として好評

★最も信頼されている薬業界の指針

週3回タブロイド28頁建 /薬 事 日 報/

東京神田和泉町1

●振替 東京80665

日本薬史学会会則

- 第1条 本会は日本薬史学会 The Japanese Society of History of Pharmacy と名付ける.
- 第2条 本会は薬学,薬業に関する歴史の調 査研究を行い,薬学の進歩発達に寄 与することを目的とする.
- 第3条 本会の目的を達成するために次の事業を行う.
 - 1. 総会(毎年日本薬学会年会の 時 に行う)
 - 2. 例会(研究発表会,集談会)
 - 講演会、シンポジウム、ゼミナール、その他。
 - 4. 機関誌「薬史学雑誌」の発行. 当分の間年2回とする.
 - 5. 資料の収集, 資料目録の作製.
 - 6. 薬史学教育の指導ならびに普 及.
 - 7. その他必要と認める事業.
- 第4条 本会の事業目的に賛成し、その目的 の達成に協力しようとする人をもっ て会員とする.
- 第5条 本会の会員は会費として年額1,000 円を前納しなければならない. 但し 学生は年額500円とする. 賛助会員 は本会の事業を協賛する人または団 体とする. 賛助会員は年額5,000円 とする.
- 第6条 本会に次の役員をおく. 会長1名. 幹事若干名. 評議員若干名. 役員の 任期は2ヵ年とし重任することを認 める.
 - 1. 会長は総会で会員の互選によって選び、本会を代表し会務を総理する.

- 2. 幹事は総会で会員の互選によって選び、会長を補佐して会務を 処理する.
- 3. 幹事中若干名を常任幹事とし、 日常の会務および 緊急事項の処 理ならびに 経理事務 を 担当す る.
- 4. 評議員は会長の推薦による.
- 第7条 本会に事務担当者若干名をおく. 運 営委員会は会長これを委嘱し、常任 幹事の指示を受けて日常の事務をと る.
- 第8条 本会の事業目的を達成するため別に 臨時委員を委嘱することができる.
- 第9条 本会は会長の承認により 支部又は部 会を設けることができる.
- 第10条 本会の会則を改正するには総会で出席者の過半数以上の決議によるものとする.
- 第11条 本会の年度は暦年 (1月より12月まで)とする.
- 第12条 本会の事務所は東京都千代田区神田 駿河台日本大学理工学部薬学科内 に おく.

日本薬史学会役員 (昭和41年3月現在) ○印は常任幹事

会長 朝比奈泰彦

 幹事
 赤須
 通美
 三浦
 三郎

 石坂
 哲夫
 三堀
 三郎

○木村雄四郎 根本曽代子 清水藤太郎 ○吉井千代田

 (地方)
 高橋真太郎
 木村 康一

 宗田
 一 塚本 赴夫

胃が痛む 胸がやける

のみすぎ 食べすぎ

一層錠

1 2 0 錠 錠

顆粒(カリュウ)12包

食欲がない



)タケダ薬品

の健康を守ります。 『建門整場効果』胃腸の運動を活発にして食欲をたかめ、胃腸 スッキリします。 胸やけ・げっぷなどの過酸症状をおさえ胃が 食べ物を早くこなし、栄養の吸収を促進します 潰瘍痛などの痛みをとりのぞきます。 【鎮痛効果】 【強い消化力】 【制酸効果】

胃痛・